



## ハイアベイラビリティコマンド

---

- clear diagnostic event-log (3 ページ)
- clear secure-stackwise-virtual interface (4 ページ)
- diagnostic monitor (5 ページ)
- diagnostic schedule module (7 ページ)
- debug secure-stackwise-virtual (10 ページ)
- diagnostic start (11 ページ)
- diagnostic stop (14 ページ)
- domain id (16 ページ)
- dual-active detection pagp (17 ページ)
- dual-active recovery-reload-disable (18 ページ)
- hw-module switch slot (19 ページ)
- hw-module switch usbflash (21 ページ)
- main-cpu (22 ページ)
- maintenance-template (23 ページ)
- mode sso (24 ページ)
- policy config-sync prc reload (25 ページ)
- redundancy (26 ページ)
- redundancy force-switchover (27 ページ)
- reload (28 ページ)
- router routing protocol shutdown l2 (29 ページ)
- secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits (30 ページ)
- secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key (31 ページ)
- set platform software fed switch (32 ページ)
- set platform software nif-mgr switch (33 ページ)
- show diagnostic bootup (34 ページ)
- show diagnostic content (35 ページ)
- show diagnostic description (39 ページ)
- show diagnostic events (41 ページ)
- show diagnostic result (43 ページ)

- [show diagnostic simulation failure](#) (48 ページ)
- [show diagnostic schedule](#) (49 ページ)
- [show hw-module switch subslot](#) (50 ページ)
- [show logging onboard switch](#) (52 ページ)
- [show platform pm l2bum-status](#) (56 ページ)
- [show platform pm l2bum-status vlan](#) (57 ページ)
- [show platform software fed](#) (58 ページ)
- [show platform software fed switch fss bum-opt summary](#) (61 ページ)
- [show platform software l2\\_svl\\_bum forwarding-manager switch](#) (62 ページ)
- [show platform software nif-mgr switch](#) (64 ページ)
- [show redundancy](#) (68 ページ)
- [show redundancy config-sync](#) (72 ページ)
- [show secure-stackwise-virtual](#) (74 ページ)
- [show stackwise-virtual](#) (76 ページ)
- [show tech-support stack](#) (78 ページ)
- [stackwise-virtual](#) (83 ページ)
- [stackwise-virtual dual-active-detection](#) (84 ページ)
- [stackwise-virtual link](#) (85 ページ)
- [standby console enable](#) (86 ページ)
- [start maintenance](#) (87 ページ)
- [stop maintenance](#) (88 ページ)
- [svl l2bum optimization](#) (89 ページ)
- [system mode maintenance](#) (90 ページ)

## clear diagnostic event-log

特定のスイッチモジュールまたはイベントタイプの診断イベントログをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear diagnostic event-log** コマンドを使用します。

```
clear diagnostic event-log [{event-type {error | info | warning} | switch{switch_num module
module_num | all [{event-type {error | info | warning}]}]}
```

### 構文の説明

<b>event-type error</b>	エラーイベントをクリアします。
<b>event-type info</b>	情報イベントをクリアします。
<b>event-type warning</b>	警告イベントをクリアします。
<b>switch num</b>	特定のスイッチのイベントをクリアします。
<b>module num</b>	特定のモジュールのイベントをクリアします。
<b>switch all</b>	すべてのスイッチのすべてのイベントログをクリアします。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

#### 例

次に、エラーイベントログをクリアする例を示します。

```
Device# clear diagnostic event-log event-type error
```

次に、スイッチ 1 モジュール 1 のイベントログをクリアする例を示します。

```
Device# clear diagnostic event-log switch 1 module 1
```

次に、すべてのスイッチのエラーイベントログをクリアする例を示します。

```
Device# clear diagnostic event-log switch all
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show diagnostic events</b>	診断イベントログを表示します。

## clear secure-stackwise-virtual interface

インターフェイス統計情報をクリアするには、特権 EXEC モードで **clear secure-stackwise-virtual interface** コマンドを使用します。

**clear secure-stackwise-virtual interface** *interface-id*

---

コマンドモード 特権 EXEC (#)

---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。

---

例：

次に、Secure StackWise Virtual 40 ギガビットイーサネット インターフェイスをクリアする例を示します。

Device# **clear secure-stackwise-virtual interface fortyGigabitEthernet 1/0/10**

## diagnostic monitor

ヘルスマニタリング診断テストを設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **diagnostic monitor** コマンドを使用します。テストをディセーブルにし、デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
diagnostic monitor interval switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} [hh:mm:ss milliseconds day [cardindex number]
```

```
diagnostic monitor switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} [cardindex number]
```

```
diagnostic monitor threshold switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} failure count count [days number | hours number | milliseconds number | minutes number | runs number | seconds number] cardindex number
```

```
no diagnostic monitor interval switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} [cardindex number]
```

```
no diagnostic monitor switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} [cardindex number]
```

```
no diagnostic monitor threshold switch number module number test {name | test-id | test-id-range | all} { failure count [[count [days number | hours number | milliseconds number | minutes number | runs number | seconds number] | cardindex number] | cardindex number] }
```

### 構文の説明

<b>interval</b>	テストの間隔を設定します。
<b>switch</b> <i>number</i>	スイッチ番号（スタックメンバ番号）を指定します。スイッチがスタンドアロンスイッチの場合、スイッチ番号は1です。スイッチがスタック内にある場合、スタック内のスイッチメンバ番号に応じて1～9を指定できます。 このキーワードは、スタック対応スイッチでのみサポートされています。
<b>test</b>	実行するテストを指定します。
<i>name</i>	テストの名前。
<i>test-id</i>	テストの ID 番号。
<i>test-id-range</i>	テストの ID 番号の範囲。カンマおよびハイフンで区切られた整数で範囲を入力します（例：1,3-6 はテスト ID 1、3、4、5 および 6）。
<b>all</b>	すべての診断テストを指定します。

<i>hh:mm:ss</i>	モニタリング間隔（時間、分、秒）。時間（0～24）、分（0～60）、秒（0～60）を入力します。
<i>milliseconds</i>	モニタリング間隔（ミリ秒（ms））。テスト時間をミリ秒（0～999）で入力します。
<i>day</i>	モニタリング間隔（日数）。テストの間隔を日数（0～20）で入力します。
<b>threshold</b>	障害しきい値を設定します。
<b>failure count</b> <i>count</i>	障害しきい値のカウンタを設定します。
<b>cardindex</b> <i>number</i>	（任意）カードインデックス番号を指定します。

コマンド デフォルト モニタリングはディセーブルで、障害しきい値は設定されていません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション（config）

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 診断モニタリングをイネーブルにする前に、障害しきい値およびテストの間隔を設定する必要があります。

**diagnostic monitor switch module test** コマンドを入力する際は、すべての接続ポートをディセーブルにしてネットワークトラフィックを隔離する必要があります。また、テスト中はテストパケットを送信しないでください。

例

次に、テスト1の障害しきい値カウンタを20に設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# diagnostic monitor threshold switch 2 test 1 failure count 20
```

次に、テスト2のモニタリング間隔を設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# diagnostic monitor interval switch 2 test 2 12:30:00 750 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
<b>show diagnostic content switch module</b>	オンライン診断テストの結果を表示します。

# diagnostic schedule module

特定のスイッチモジュールに対するテストベースの診断タスクをスケジューリングしたり、スーパーバイザエンジンのスイッチオーバーをスケジューリングしたりするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **diagnostic schedule switch module** コマンドを使用します。スケジュールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
diagnostic schedule switch number module module-num test {test-id | {{complete | minimal} {dailyhh:mm | onmonth | weekly day-of-week }} | {{all | basic | non-disruptive | per-port} {dailyhh:mm | onmonth | port {interface-port-number | port-number-list | all {daily hh:mm | on month | weekly day-of-week }} | weekly day-of-week }}}
no diagnostic schedule switch number module module-num test {test-id | {{complete | minimal} {dailyhh:mm | onmonth | weekly day-of-week }} | {{all | basic | non-disruptive | per-port} {dailyhh:mm | onmonth | port {interface-port-number | port-number-list | all {daily hh:mm | on month | weekly day-of-week }} | weekly day-of-week }}}

```

構文の説明

<b>switch</b> <i>switch_num</i>	スイッチ番号を指定します。
<b>module</b> <i>module_num</i>	モジュール番号を指定します。
<b>test</b>	診断テストスイート属性を指定します。
<i>test-id</i>	実行するテストの ID 番号。 テスト ID のリストを表示するには、 <b>show di</b> を使用します。
<b>all</b>	すべての診断テストを実行します。
<b>complete</b>	すべてのブートアップテストスイートを選択
<b>minimal</b>	最小限のブートアップテストスイートを選択
<b>non-disruptive</b>	中断を伴わないテストスイートを選択します。
<b>per-port</b>	ポート単位のテストスイートを選択します。 <b>per-port</b> は、スケジューリングされたスイッチはサポートされません。
<b>port</b>	(任意) テストのスケジュールを設定するポ
<i>interface-port- number</i>	(任意) ポート番号です。範囲は 1 ~ 48 で
<i>port-number-list</i>	(任意) ポート番号の範囲 (ハイフンで区切
<b>all</b>	(任意) すべてのポートを指定します。

<b>on month</b>	テストベースの診断タスクのスケジュールを指定する。January や February など、月の名前を大文字または小文字で入力します。
<b>daily hh:mm</b>	テストベースの診断タスクの日次スケジュールを設定する。2桁の数字（24時間表記）で時間および分を入力する必要があります。
<b>weekly day-of-week</b>	テストベースの診断タスクの週次スケジュールを設定する。Monday や Tuesday など、曜日を大文字または小文字で入力します。

**コマンド デフォルト** 特定のスイッチモジュールに対するテストベースの診断タスクはスケジューリングされていません。

**コマンド モード** グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** アクティブ スーパーバイザ エンジンからスタンバイ スーパーバイザ エンジンへのスイッチオーバーをスケジューリングするには、**diagnostic schedule switch module test** コマンドを実行します。

**show diagnostic content switch module** コマンドを実行すると、テスト ID のリストが表示されます。**ScheduleSwitchover** フィールドにテスト ID が表示されます。

次のコマンドを使用すると、定期的なスイッチオーバー（毎日または毎週）または指定した時点での 1 回のスイッチ オーバーを指定できます。

- **diagnostic schedule switch number module module\_num test test-id on mm**
- **diagnostic schedule switch number module module\_num test test-id daily hh:mm**
- **diagnostic schedule switch number module module\_num test test-id weekly day-of-week**



(注) スタンバイ スーパーバイザ モジュールがシステムをスイッチ オーバーできない場合のシステムのダウンタイムを回避するため、スタンバイ スーパーバイザ モジュールからアクティブ スーパーバイザ モジュールへのスイッチオーバーをスイッチオーバーが発生してから 10 分後にスケジューリングすることを推奨します。

**例** 次に、特定のスイッチモジュールに対して特定の月の特定の日に診断テストを実行するようにスケジューリングする例を示します。



```
Device# configure terminal  
Device(config)# diagnostic schedule switch 1 module 1 test 5 on may
```

次に、特定のスイッチモジュールに対して毎日特定の時間に診断テストを実行するようにスケジューリングする例を示します。

```
Device# configure terminal  
Device(config)# diagnostic schedule switch 1 module 1 test 5 daily 12:25
```

次に、特定のスイッチモジュールに対して毎週特定の曜日に診断テストを実行するようにスケジューリングする例を示します。

```
Device# configure terminal  
Device(config)# diagnostic schedule module 1 test 5 weekly friday
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show diagnostic content</b>	すべてのテストおよびモジュールについて、テスト ID、テスト属性、サポート対象テストレベルなどのテスト情報を表示します。
<b>show diagnostic schedule</b>	現在スケジュールされている診断タスクを表示します。

## debug secure-stackwise-virtual

Secure StackWise Virtual のデバッグを有効にするには、特権 EXEC モードで **debugsecure-stackwise-virtual** コマンドを使用します。

デバッグを無効にするには、**undebug secure-stackwise-virtual** コマンドを使用します。

### debug secure-stackwise-virtual

undebug secure-stackwise-virtual

コマンド デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。

例：

次に、**debugsecure-stackwise-virtual** コマンドの出力例を示します。

```
Device# debug secure-stackwise-virtual
Secure-SVL debugging is on
Switch#
```

次に、**undebugsecure-stackwise-virtual** コマンドの出力例を示します。

```
Device# undebug secure-stackwise-virtual
Secure-SVL debugging is off
Switch#
```

## diagnostic start

指定した診断テストを実行するには、特権 EXEC モードで **diagnostic start** コマンドを使用します。

```
diagnostic start switch number module module_num test {test-id | minimal | complete | {{all | basic | non-disruptive | per-port }} {port{num | port_range | all}}}
```

構文の説明		
<b>switch</b> <i>switch_num</i>		スイッチ番号を指定します。
<b>module</b> <i>module_num</i>		モジュール番号を指定します。
<b>test</b>		実行するテストを指定します。
<i>test-id</i>		実行するテストの ID 番号を入力します。 カンマおよびハイフンで区切られた整数で <i>test-id-range</i> または <i>port_range</i> を入力します（例：1,3-6 はテスト ID 1、3、4、5、および 6）。
<b>minimal</b>		最小限のブートアップ診断テストを実行します。
<b>complete</b>		すべてのブートアップ診断テストを実行します。
<b>basic</b>		基本的なオンデマンド診断テストを実行します。
<b>per-port</b>		ポート単位のレベルテストを実行します。
<b>non-disruptive</b>		中断を伴わないヘルスマonitoringテストを実行します。
<b>all</b>		すべての診断テストを実行します。
<b>port</b> <i>num</i>		(任意) インターフェイスのポート番号を指定します。 範囲は 1 ~ 48 です。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン テスト ID のリストを表示するには、**show diagnostic content** コマンドを実行します。  
テストを停止する場合は、**diagnostic stop** コマンドを使用します。

## 例

次に、すべてのオンライン診断テストを実行する例を示します。

```
Device# diagnostic start switch 1 module 1 test all

Diagnostic[switch 1, module 1]: Running test(s) 2 may disrupt normal system operation
and requires reload
Do you want to continue? [no]: y
Device#
*Jul  5 03:04:49.081 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestGoldPktLoopback{ID=1} ...
*Jul  5 03:04:49.086 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestGoldPktLoopback{ID=1}
has completed successfully
*Jul  5 03:04:49.086 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestPhyLoopback{ID=2} ...
*Jul  5 03:04:49.092 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestPhyLoopback{ID=2} has
completed successfully
*Jul  5 03:04:49.092 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestThermal{ID=3} ...
*Jul  5 03:04:52.397 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestThermal{ID=3} has
completed successfully
*Jul  5 03:04:52.397 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestScratchRegister{ID=4} ...
*Jul  5 03:04:52.414 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestScratchRegister{ID=4}
has completed successfully
*Jul  5 03:04:52.414 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running TestPoe{ID=5}
...
*Jul  5 03:04:52.415 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestPoe{ID=5} has completed
successfully
*Jul  5 03:04:52.415 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestUnusedPortLoopback{ID=6} ...
*Jul  5 03:04:52.415 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestUnusedPortLoopback{ID=6}
has completed successfully
*Jul  5 03:04:52.415 PDT: %DIAG-6-TEST_RUNNING: switch 1, module 1: Running
TestPortTxMonitoring{ID=7} ...
*Jul  5 03:04:52.416 PDT: %DIAG-6-TEST_OK: switch 1, module 1: TestPortTxMonitoring{ID=7}
has completed successfull
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>diagnostic bootup level</b>	ブートアップ診断レベルを設定します。
<b>diagnostic event-log size</b>	診断イベントログのサイズをダイナミックに変更します。
<b>diagnostic monitor</b>	ヘルスマonitoring診断テストを設定します。
<b>diagnostic ondemand</b>	オンデマンド診断を設定します。
<b>diagnostic schedule</b>	特定のベイ、スロット、またはサブスロットの診断テストのスケジュールを設定します。
<b>diagnostic stop</b>	指定した診断テストを停止します。
<b>show diagnostic bootup</b>	設定されているブートアップ時の診断レベルを表示します。
<b>show diagnostic content module</b>	使用可能な診断テストを表示します。

コマンド	説明
<b>show diagnostic description</b>	診断テストの説明を表示します。
<b>show diagnostic events</b>	診断イベントログを表示します。
<b>show diagnostic ondemand settings</b>	オンデマンド診断の設定を表示します。
<b>show diagnostic result</b>	モジュールの診断テストの結果を表示します。
<b>show diagnostic schedule</b>	現在スケジュールされている診断タスクを表示します。
<b>show diagnostic status</b>	実行中の診断テストを表示します。

## diagnostic stop

テストを停止するには、特権 EXEC モードで **diagnostic stop** コマンドを使用します。

**diagnostic stop switch** *number* **module** *module\_num*

構文の説明	<b>switch</b> <i>switch_num</i>	スイッチ番号を指定します。
	<b>module</b> <i>module_num</i>	モジュール番号を指定します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン テストを開始する場合は、**diagnostic start** コマンドを使用します。

例

次に、診断テストを停止する例を示します。

```
Device# diagnostic stop module 3
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>diagnostic bootup level</b>	ブートアップ診断レベルを設定します。
	<b>diagnostic event-log size</b>	診断イベントログのサイズをダイナミックに変更します。
	<b>diagnostic monitor</b>	ヘルスマonitoring診断テストを設定します。
	<b>diagnostic ondemand</b>	オンデマンド診断を設定します。
	<b>diagnostic schedule</b>	特定のベイ、スロット、またはサブスロットの診断テストのスケジュールを設定します。
	<b>diagnostic start</b>	指定した診断テストを実行します。
	<b>show diagnostic bootup</b>	設定されているブートアップ時の診断レベルを表示します。
	<b>show diagnostic content module</b>	使用可能な診断テストを表示します。

コマンド	説明
<b>show diagnostic description</b>	診断テストの説明を表示します。
<b>show diagnostic events</b>	診断イベントログを表示します。
<b>show diagnostic ondemand settings</b>	オンデマンド診断の設定を表示します。
<b>show diagnostic result</b>	モジュールの診断テストの結果を表示します。
<b>show diagnostic schedule</b>	現在スケジュールされている診断タスクを表示します。
<b>show diagnostic status</b>	実行中の診断テストを表示します。

# domain id

スイッチで Cisco StackWise Virtual ドメイン ID を設定するには、StackWise Virtual コンフィギュレーションモードで **domain id** コマンドを使用します。無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**domain id**  
**no domain id**

構文の説明	domain	StackWise Virtual 設定を特定のドメインに関連付けます。
	<i>id</i>	ドメイン ID の値。範囲は 1～255 です。デフォルトは 1 です。

コマンド デフォルト      ドメイン ID が設定されていません。

コマンド モード      StackWise Virtual コンフィギュレーション (config-stackwise-virtual)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン      このコマンドはオプションです。ドメイン ID を設定する前に、**stackwise-virtual** コマンドを使用して StackWise Virtual を有効にする必要があります。

## 例

次に、Cisco StackWise Virtual を有効にして、ドメイン ID を設定する例を示します。

```
デバイス(config)# stackwise-virtual
デバイス(config-stackwise-virtual)#domain 2
```



## dual-active detection pagp

PAgP デュアルアクティブ検出を有効にするには、StackWise Virtual コンフィギュレーションモードで **dual-active detection pagp** コマンドを使用します。PAgP デュアルアクティブ検出をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dual-active detection pagp**  
**no dual-active detection pagp**

構文の説明	<b>dual-active detection pagp</b>	pagp デュアルアクティブ検出を有効にします。
コマンドデフォルト	イネーブル	
コマンドモード	StackWise Virtual コンフィギュレーション (config-stackwise-virtual)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例：

次に、channel-group で PAgP デュアルアクティブ検出の信頼モードを有効にする例を示します。

```

デバイス(config)# stackwise-virtual
デバイス(config-stackwise-virtual)#dual-active detection pagp
デバイス(config-stackwise-virtual)#dual-active detection pagp trust channel-group 1

```

## dual-active recovery-reload-disable

スイッチの自動リカバリによるリロードを無効にするには、StackWise Virtual コンフィギュレーションモードで **dual-active recovery-reload-disable** コマンドを使用します。自動リカバリによるリロードを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dual-active recovery-reload-disable**  
**no dual-active recovery-reload-disable**

構文の説明	<b>dual-active recovery-reload-disable</b>	自動リカバリによるリロードを無効にします。
コマンド デフォルト	イネーブル	
コマンド モード	StackWise Virtual コンフィギュレーション (config-stackwise-virtual)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1 このコマンドが導入されました。	

例：

次に、スイッチの自動リカバリによるリロードを無効にする例を示します。

```
Device(config)# stackwise-virtual
Device(config-stackwise-virtual)#dual-active recovery-reload-disable
```

## hw-module switch slot

スロットで使用可能なラインカードやスーパーバイザなどのコンポーネントを制御するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **hw-module switch slot** コマンドを使用します。

**hw-module switch** *switch-number slot slot-number* {**logging onboard** [**counter** | **environment** | **message** | **poe** | **temperature** | **voltage**] | **shutdown**}

構文の説明	<i>switch-number</i> アクセスするスイッチ。有効値は1と2です。				
	<b>slots</b> <i>slot-number</i> アクセスするスロット番号を指定します。有効な値は1~4です。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1: ラインカードスロット1</li><li>• 2: スーパーバイザスロット0</li><li>• 3: スーパーバイザスロット1</li><li>• 4: ラインカードスロット4</li></ul>				
	<b>logging onboard</b> オンボードロギングを有効にします。				
	<b>counter</b> (任意) オンボードカウンタロギングを設定します。				
	<b>environment</b> (任意) オンボード環境ロギングを設定します。				
	<b>message</b> (任意) オンボードメッセージロギングを設定します。				
	<b>poe</b> (任意) オンボード PoE ロギングを設定します。				
	<b>temperature</b> (任意) オンボード温度ロギングを設定します。				
	<b>voltage</b> (任意) オンボード電圧ロギングを設定します。				
	<b>shutdown</b> Field Replaceable Unit (FRU) をシャットダウンします。				
コマンドデフォルト	なし				
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション (config)				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>Cisco IOS XE Fuji 16.9.1</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。				

### 例

次に、スイッチ1スロット1に対してオンボードロギングを有効にする例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボードカウンタロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard counter
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボード環境ロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard environment
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボードメッセージロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard message
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボード PoE ロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard poe
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボード温度ロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard temperature
```

次に、スイッチ 1 スロット 1 に対してオンボード電圧ロギングを設定する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 logging onboard voltage
```

次に、FRU をシャットダウンする例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 slot 1 shutdown
```

## hw-module switch usbflash

USB SSD のマウントを解除するには、特権 EXEC モードで **hw-module switch *switch-number* usbflash** コマンドを使用します。

**hw-module switch *switch-number*usbflashunmount**

### 構文の説明

*switch number*    アクセスするスイッチ。有効値は1と2です。

**usbflash unmount**    USB SSD のマウントを解除します。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、スイッチ 1 から USB SSD のマウントを解除する例を示します。

```
Device# hw-module switch 1 usbflash unmount
```

## main-cpu

冗長メイン コンフィギュレーション サブモードを開始し、スタンバイスイッチをイネーブルにするには、冗長コンフィギュレーション モードで **main-cpu** コマンドを使用します。

### main-cpu

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

#### コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

冗長メイン コンフィギュレーション サブモードから、**standby console enable** コマンドを使用してスタンバイスイッチをイネーブルにします。

次に、冗長メインコンフィギュレーションサブモードを開始し、スタンバイスイッチをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device#
```

## maintenance-template

メンテナンステンプレートを作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **maintenance-template** *template\_name* コマンドを使用します。テンプレートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**maintenance-template** *template\_name*  
**no maintenance-template** *template\_name*

構文の説明	<b>maintenance-template</b>	特定の名称で GIR 用のテンプレートを作成します。
	<i>template_name</i>	メンテナンス テンプレートの名称。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例：

次に、g1 という名称のメンテナンス テンプレートを設定する例を示します。

```
Device(config)# maintenance template g1
```

## mode sso

冗長モードをステートフルスイッチオーバー（SSO）に設定するには、冗長コンフィギュレーションモードで **mode sso** コマンドを使用します。

### mode sso

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

冗長コンフィギュレーション

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

**mode sso** コマンドは、冗長コンフィギュレーションモードでのみ入力できます。

システムを SSO モードに設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- SSO モードをサポートするために、スタック内のスイッチでは同一の Cisco IOS イメージを使用する必要があります。Cisco IOS リリース間の相違のために、冗長機能が動作しない場合があります。
- モジュールの活性挿抜（OIR）を実行する場合、モジュールの状態が移行状態（Ready 以外の状態）である場合にだけ、ステートフルスイッチオーバーの間にスイッチはリセットし、ポートステートは再起動します。
- 転送情報ベース（FIB）テーブルはスイッチオーバー時に消去されます。ルーテッドトラフィックは、ルートテーブルが再コンバージェンスするまで中断されます。

次の例では、冗長モードを SSO に設定する方法を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# mode sso
Device(config-red)#
```



## policy config-sync prc reload

Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期中に発生した場合にスタンバイスイッチをリロードするには、冗長コンフィギュレーションモードで **policy config-sync reload** コマンドを使用します。Parser Return Code (PRC) の障害が発生した場合にスタンバイスイッチがリロードしないように指定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**policy config-sync {bulk | lbl} prc reload**  
**no policy config-sync {bulk | lbl} prc reload**

### 構文の説明

**bulk** バルク コンフィギュレーションモードを指定します。

**lbl** 1行ごと (lbl) のコンフィギュレーションモードを指定します。

### コマンドデフォルト

このコマンドは、デフォルトではイネーブルです。

### コマンドモード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期化中に発生した場合に、スタンバイスイッチがリロードされないように指定する例を示します。

```
Device(config-red)# no policy config-sync bulk prc reload
```

# redundancy

冗長コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **redundancy** コマンドを使用します。

## redundancy

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

冗長コンフィギュレーションモードは、スタンバイスイッチをイネーブルにするために使用されるメイン CPU サブモードを開始するために使用されます。

メイン CPU サブモードを開始するには、冗長コンフィギュレーションモードで **main-cpu** コマンドを使用します。

スタンバイスイッチを有効にするには、メイン CPU サブモードから **standby console enable** コマンドを使用します。

冗長コンフィギュレーションモードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

次に、冗長コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
デバイス(config)# redundancy
デバイス(config-red)#
```

次の例では、メイン CPU サブモードを開始する方法を示します。

```
デバイス(config)# redundancy
デバイス(config-red)# main-cpu
デバイス(config-r-mc)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show redundancy</b>	冗長ファシリティ情報を表示します。

## redundancy force-switchover

アクティブスイッチからスタンバイスイッチへのスイッチオーバーを強制的に実行するには、特権 EXEC モードで **redundancy force-switchover** コマンドを使用します。

### redundancy force-switchover

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドデフォルト

なし

#### コマンドモード

特権 EXEC (#)

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

#### 使用上のガイドライン

手動で冗長スイッチに切り替えるには、**redundancy force-switchover** コマンドを使用します。冗長スイッチはCisco IOS XE イメージを実行する新しいアクティブスイッチになり、モジュールはデフォルト設定にリセットされます。古いアクティブスイッチは新しいイメージで再起動します。

アクティブスイッチで **redundancy force-switchover** コマンドを使用すると、アクティブスイッチのスイッチポートがダウン状態になります。

部分リングスタック内のスイッチにこのコマンドを使用すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
Device# redundancy force-switchover
```

```
Stack is in Half ring setup; Reloading a switch might cause stack split
This will reload the active unit and force switchover to standby[confirm]
```

次の例では、アクティブ スーパーバイザ エンジンからスタンバイ スーパーバイザ エンジンに手動で切り替える方法を示します。

```
Device# redundancy force-switchover
Device#
```

# reload

スタックメンバーをリロードし、設定変更を適用するには、特権 EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

**reload** [{ /noverify | /verify }] [{ at | cancel | in | pause | reason *reason* ]

構文の説明		
<b>/noverify</b>	(任意) リロードの前にファイルシグニチャを確認しないように指定します。	
<b>/verify</b>	(任意) リロードの前にファイルシグニチャを確認します。	
<b>at</b>	(任意) リロードを実行する時間を hh:mm 形式で指定します。	
<b>cancel</b>	(任意) 保留中のリロードをキャンセルします。	
<b>in</b>	(任意) リロードを実行する間隔を指定します。	
<b>pause</b>	(任意) リロードを一時停止します。	
<b>reason <i>reason</i></b>	(任意) システムをリロードする理由を指定します。	

**コマンド デフォルト** スタックメンバーをただちにリロードし、設定の変更を有効にします。

**コマンド モード** 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**例** 次の例では、スイッチスタックをリロードする方法を示します。

```
Device# reload
System configuration has been modified. Save? [yes/no]: y
Proceed to reload the whole Stack? [confirm] y
```

## router routing protocol shutdown l2

メンテナンステンプレート内で隔離するインスタンスを作成するには、メンテナンス テンプレート コンフィギュレーション モードで **router routing\_protocol instance\_id | shutdown l2** コマンドを使用します。インスタンスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
{ router routing_protocol instance_id | shutdown l2 }
no{ router routing_protocol instance_id | shutdown l2 }
```

構文の説明	router	ルーティング プロトコルに関連付けられたインスタンスを構成します。
	<i>routing_protocol</i>	テンプレート用に定義されているルーティング プロトコル。
	<i>instance_id</i>	ルーティング プロトコルに関連付けられたインスタンス ID。
	<b>shutdown l2</b>	レイヤ 2 インターフェイスをシャットダウンするインスタンスを構成します。

コマンド デフォルト      ディセーブル

コマンド モード          メンテナンス テンプレートの設定 (config-maintenance-temp)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例 :

次の例に、メンテナンス テンプレート temp1 でインスタンス ID が 1 である ISIS 用のインスタンスを作成する方法を示します。

```
Device(config)# maintenance template g1
Device(config-maintenance-temp1)# router isis 1
```

次の例に、メンテナンス テンプレート g1 でレイヤ 2 インターフェイスをシャットダウンするためのインスタンスを作成する方法を示します。

```
Device(config)# maintenance template g1
Device(config-maintenance-temp1)# shutdown l2
```

## secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits

Secure StackWise Virtual 認証キーを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits** コマンドを使用します。

すべてのノードの認証キーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits**  
**nosecure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits**

コマンド デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** StackWise Virtual 認証キーは、スタックに参加する前に、すべてのスタックメンバで個別に設定する必要があります。

スタックのすべてのメンバに同じ認証キーを設定する必要があります。

**nosecure-stackwise-virtualauthorization-key** コマンドでは、認証キーはゼロ化されずに削除されます。スタックのすべてのメンバから認証キーを削除する必要があります。

例：

次に、**secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits** コマンドの出力例を示します。

```
Device(config)#secure-stackwise-virtual authorization-key 128-bits
Device(config)#$ual authorization-key FACEFACEFACEFACEFACEFACEFACEFACEFACE
SECURE SVL key successfully set.
The stacking will run in SECURE SVL
mode after the reload. Make sure you set the
same secure-svl key on all the members of the stack.
nyq_SVL(config)#
```

## secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key

デバイスから Secure StackWise Virtual SHA-1 キーをゼロ化するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key** コマンドを使用します。

### secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key

コマンド デフォルト	なし
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)
コマンド履歴	リリース 変更内容 Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン



- (注) このコマンドは、デバイスから IOS イメージとコンフィギュレーション ファイルを削除することによって、デバイスから Secure StackWise Virtual SHA-1 キーをゼロ化します。

例：

次に、**secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key** コマンドの出力例を示します。

```
Device(config)#secure-stackwise-virtual zeroize sha1-key

**Critical Warning** - This command is irreversible and will zeroize the Secure-SVL-VPK
by Deleting the IOS image and config files, please use extreme caution and confirm with
Yes on each of three
iterations to complete. The system will reboot after the command executes successfully
Proceed ?? (yes/[no]): yes
Proceed ?? (yes/[no]): yes
Proceed with zeroization ?? (yes/[no]): yes

% Proceeding to zeroize image. "Reload" session to remove the loaded image.
*Dec 14 11:04:43.004: %SYS-7-NV_BLOCK_INIT: Initialized the geometry of nvram
Removing packages.conf
The configuration is reset and the system will now reboot
```

## set platform software fed switch

SVL ポート単位のパケットキャッシュ数を設定するには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで **set platform software fed switch** コマンドを使用します。

**set platform software fed switch**{*switch-number* | **active** | **standby**} {**F0** | **F1 active**} **fss pak-cache** *count*

構文の説明		
	<b>switch</b> { <i>switch-number</i>   <b>active</b>   <b>standby</b> }	スイッチに関する情報を指定します。次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i></li> <li>• <b>active</b> : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。</li> <li>• <b>standby</b> : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。</li> </ul>
	<b>F0</b>	Embedded Service Processor スロット 0 に関する情報を表示します。
	<b>FP active</b>	アクティブな Embedded Service Processor に関する情報を表示します。
	<b>pak-cache</b> <i>count</i>	パケットキャッシュ数を指定します。範囲は 10 ~ 600 です。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト ポート単位のパケットキャッシュ数のデフォルトは 10 です。

コマンド モード ユーザ EXEC (>)  
特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

### 例

次に、SVL ポート単位のパケットキャッシュ数を設定する例を示します。

```
Device# set platform software fed switch active F1 active fss pak-cache 40
```



## set platform software nif-mgr switch

SVL ポート単位の packets キャッシュ数を設定するには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで **set platform software nif-mgr switch** コマンドを使用します。

**set platform software nif-mgr switch** {*switch-number* | **active** | **standby**} **R0 pak-cache** *count*

### 構文の説明

**switch** {*switch-number* | **active** | **standby**}

スイッチに関する情報を指定します。次の選択肢があります。

- *switch-number*
- **active** : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。
- **standby** : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。

**R0** ルートプロセッサ (RP) スロット 0 に関する情報を指定します。

**pak-cache** *count* パケットキャッシュ数を指定します。範囲は 10 ~ 600 です。デフォルトは 10 です。

### コマンドデフォルト

ポート単位の packets キャッシュ数のデフォルトは 10 です。

### コマンドモード

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

なし

### 例

次に、SVL ポート単位の packets キャッシュ数を設定する例を示します。

```
Device# set platform software nif_mgr switch active R0 pak-cache 40
```

## show diagnostic bootup

スイッチの診断ブート情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show diagnostic bootup** コマンドを使用します。

### show diagnostic bootup level

構文の説明	<b>level</b>	診断ブートレベル情報を表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、**show diagnostic bootup level** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show diagnostic bootup level
Current bootup diagnostic level: minimal
```

## show diagnostic content

スイッチの診断テストの内容を表示するには、特権 EXEC モードで **show diagnostic content** コマンドを使用します。

**show diagnostic content switch** {*switch-number* **module** {**1** | **2** | **4**} | **all** [**all**]}

### 構文の説明

<b>switch</b> <i>switch-number</i>	選択するスイッチを指定します。
<b>module</b>	スイッチのモジュールを選択します。
<b>1</b>	モジュール C9400-LC-48U の診断テストの内容を表示します。
<b>2</b>	モジュール C9400-SUP-1 の診断テストの内容を表示します。
<b>4</b>	モジュール C9400-LC-48T の診断テストの内容を表示します。
<b>switch all</b> [ <b>all</b> ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>switch all</b> : すべてのスイッチを選択します。</li> <li>• (任意) <b>all</b> : すべてのスイッチのすべての診断テストの内容を表示します。</li> </ul>

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

次に、**show diagnostic content switch all [all]** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show diagnostic content switch all all

switch 1, module 1:

Diagnostics test suite attributes:
  M/C/* - Minimal bootup level test / Complete bootup level test / NA
  B/*   - Basic ondemand test / NA
  P/V/* - Per port test / Per device test / NA
  D/N/* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA
  S/*   - Only applicable to standby unit / NA
  X/*   - Not a health monitoring test / NA
  F/*   - Fixed monitoring interval test / NA
  E/*   - Always enabled monitoring test / NA
  A/I   - Monitoring is active / Monitoring is inactive

Test Interval  Thre-
```

ID	Test Name	Attributes	day hh:mm:ss.ms	shold
1)	TestGoldPktLoopback	*BPN*X**I	not configured	n/a
2)	TestPhyLoopback	*BPD*X**I	not configured	n/a
3)	TestThermal	*B*N****A	000 00:01:30.00	1
4)	TestScratchRegister	*B*N****A	000 00:01:30.00	5
5)	TestPoe	*B*N*X**I	not configured	n/a
6)	TestUnusedPortLoopback	*BPN****I	not configured	1
7)	TestPortTxMonitoring	*BPN****A	000 00:01:15.00	1

switch 1, module 2:

Diagnostics test suite attributes:

M/C/\* - Minimal bootup level test / Complete bootup level test / NA  
 B/\* - Basic ondemand test / NA  
 P/V/\* - Per port test / Per device test / NA  
 D/N/\* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA  
 S/\* - Only applicable to standby unit / NA  
 X/\* - Not a health monitoring test / NA  
 F/\* - Fixed monitoring interval test / NA  
 E/\* - Always enabled monitoring test / NA  
 A/I - Monitoring is active / Monitoring is inactive

ID	Test Name	Attributes	Test Interval day hh:mm:ss.ms	Thre- day shold
1)	TestGoldPktLoopback	*BPN*X**I	not configured	n/a
2)	TestFantray	*B*N****A	000 00:01:40.00	1
3)	TestPhyLoopback	*BPD*X**I	not configured	n/a
4)	TestThermal	*B*N****A	000 00:01:30.00	1
5)	TestScratchRegister	*B*N****A	000 00:01:30.00	5
6)	TestMemory	*B*D*X**I	not configured	n/a
7)	TestUnusedPortLoopback	*BPN****I	not configured	1
8)	TestPortTxMonitoring	*BPN****A	000 00:01:15.00	1

switch 1, module 4:

Diagnostics test suite attributes:

M/C/\* - Minimal bootup level test / Complete bootup level test / NA  
 B/\* - Basic ondemand test / NA  
 P/V/\* - Per port test / Per device test / NA  
 D/N/\* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA  
 S/\* - Only applicable to standby unit / NA  
 X/\* - Not a health monitoring test / NA  
 F/\* - Fixed monitoring interval test / NA  
 E/\* - Always enabled monitoring test / NA  
 A/I - Monitoring is active / Monitoring is inactive

ID	Test Name	Attributes	Test Interval day hh:mm:ss.ms	Thre- day shold
1)	TestGoldPktLoopback	*BPN*X**I	not configured	n/a
2)	TestPhyLoopback	*BPD*X**I	not configured	n/a
3)	TestThermal	*B*N****A	000 00:01:30.00	1
4)	TestScratchRegister	*B*N****A	000 00:01:30.00	5
5)	TestUnusedPortLoopback	*BPN****I	not configured	1
6)	TestPortTxMonitoring	*BPN****A	000 00:01:15.00	1

switch 2, module 1:

Diagnostics test suite attributes:

M/C/\* - Minimal bootup level test / Complete bootup level test / NA  
 B/\* - Basic ondemand test / NA  
 P/V/\* - Per port test / Per device test / NA  
 D/N/\* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA  
 S/\* - Only applicable to standby unit / NA  
 X/\* - Not a health monitoring test / NA  
 F/\* - Fixed monitoring interval test / NA  
 E/\* - Always enabled monitoring test / NA  
 A/I - Monitoring is active / Monitoring is inactive

ID	Test Name	Attributes	Test Interval day hh:mm:ss.ms	Three- day shold
1)	TestGoldPktLoopback	*BPN*X**I	not configured	n/a
2)	TestPhyLoopback	*BPD*X**I	not configured	n/a
3)	TestThermal	*B*N****A	000 00:01:30.00	1
4)	TestScratchRegister	*B*N****A	000 00:01:30.00	5
5)	TestPoe	*B*N*X**I	not configured	n/a
6)	TestUnusedPortLoopback	*BPN****I	not configured	1
7)	TestPortTxMonitoring	*BPN****A	000 00:01:15.00	1

switch 2, module 2:

Diagnostics test suite attributes:

M/C/\* - Minimal bootup level test / Complete bootup level test / NA  
 B/\* - Basic ondemand test / NA  
 P/V/\* - Per port test / Per device test / NA  
 D/N/\* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA  
 S/\* - Only applicable to standby unit / NA  
 X/\* - Not a health monitoring test / NA  
 F/\* - Fixed monitoring interval test / NA  
 E/\* - Always enabled monitoring test / NA  
 A/I - Monitoring is active / Monitoring is inactive

ID	Test Name	Attributes	Test Interval day hh:mm:ss.ms	Three- day shold
1)	TestGoldPktLoopback	*BPN*X**I	not configured	n/a
2)	TestFantray	*B*N****A	000 00:01:40.00	1
3)	TestPhyLoopback	*BPD*X**I	not configured	n/a
4)	TestThermal	*B*N****A	000 00:01:30.00	1
5)	TestScratchRegister	*B*N****A	000 00:01:30.00	5
6)	TestMemory	*B*D*X**I	not configured	n/a
7)	TestUnusedPortLoopback	*BPN****I	not configured	1
8)	TestPortTxMonitoring	*BPN****A	000 00:01:15.00	1

switch 2, module 4:

Diagnostics test suite attributes:

M/C/\* - Minimal bootup level test / Complete bootup level test / NA  
 B/\* - Basic ondemand test / NA  
 P/V/\* - Per port test / Per device test / NA  
 D/N/\* - Disruptive test / Non-disruptive test / NA  
 S/\* - Only applicable to standby unit / NA  
 X/\* - Not a health monitoring test / NA  
 F/\* - Fixed monitoring interval test / NA  
 E/\* - Always enabled monitoring test / NA  
 A/I - Monitoring is active / Monitoring is inactive

ID	Test Name	Attributes	Test Interval day hh:mm:ss.ms	Three- day shold
----	-----------	------------	----------------------------------	---------------------

```
1) TestGoldPktLoopback -----> *BPN*X**I      not configured n/a
2) TestPhyLoopback -----> *BPD*X**I      not configured n/a
3) TestThermal -----> *B*N***A      000 00:01:30.00 1
4) TestScratchRegister -----> *B*N***A      000 00:01:30.00 5
5) TestUnusedPortLoopback -----> *BPN***I      not configured 1
6) TestPortTxMonitoring -----> *BPN***A      000 00:01:15.00 1
```

## show diagnostic description

スイッチの診断テストの説明を表示するには、特権 EXEC モードで **show diagnostic description** コマンドを使用します。

```
show diagnostic description switch {switch-number module {1 | 2 | 4} {test {test-id | all}}
| all test {test-list | test-id | all}}
```

構文の説明	switch <i>switch-number</i>	選択するスイッチを指定します。
	<b>switch all</b>	すべてのスイッチを選択します。
	<b>module</b>	スイッチのモジュールを選択します。
	<b>1</b>	モジュール C9400-LC-48U を選択します。
	<b>2</b>	モジュール C9400-SUP-1 を選択します。
	<b>4</b>	モジュール C9400-LC-48T を選択します。
	<b>test test-id</b>	指定したテスト ID またはテスト名について診断テストの説明を表示します。
	<b>test test-list</b>	指定した一連のテスト ID について診断テストの説明を表示します。
	<b>test all</b>	すべてのテスト ID について診断テストの説明を表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、**show diagnostic description switch switch-number module 4 test all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show diagnostic description switch 1 module 4 test all

TestGoldPktLoopback :
The GOLD packet Loopback test verifies the MAC level loopback
functionality. In this test, a GOLD packet, for which doppler
provides the support in hardware, is sent. The packet loops back
at MAC level and is matched against the stored packet. It is a
non-disruptive test.

TestPhyLoopback :
The PHY Loopback test verifies the PHY level loopback
functionality. In this test, a packet is sent which loops back
```

at PHY level and is matched against the stored packet. It is a disruptive test and cannot be run as a health monitoring test.

TestThermal :

This test verifies the temperature reading from the sensor is below the yellow temperature threshold. It is a non-disruptive test and can be run as a health monitoring test.

TestScratchRegister :

The Scratch Register test monitors the health of application-specific integrated circuits (ASICs) by writing values into registers and reading back the values from these registers. It is a non-disruptive test and can be run as a health monitoring test.

TestUnusedPortLoopback :

This test verifies the PHY level loopback functionality for admin-down ports. In this test, a packet is sent which loops back at PHY level and is matched against the stored packet. It is a non-disruptive test and can be run as a health monitoring test.

TestPortTxMonitoring :

This test monitors the TX counters of a connected interface. This test verifies if the connected port is able to send the packets or not. It is a non-disruptive test and can be run as a health monitoring test.



## show diagnostic events

スイッチの診断イベントログを表示するには、特権 EXEC モードで **show diagnostic events** コマンドを使用します。

```
show diagnostic events switch {switch-number module {1 | 2 | 4} | all [event-type [error | info | warning]]}
```

構文の説明	<b>switch</b> <i>switch-number</i>	選択するスイッチを指定します。
	<b>switch all</b>	すべてのスイッチを選択します。
	<b>module</b>	スイッチのモジュールを選択します。
	<b>1</b>	C9400-LC-48U モジュールの診断イベントログを表示します。
	<b>2</b>	C9400-SUP-1 モジュールの診断イベントログを表示します。
	<b>4</b>	C9400-LC-48T モジュールの診断イベントログを表示します。
	<b>event-type</b>	(任意) 特定のイベントタイプのイベントログを表示します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>error</b>: エラータイプのイベントログを表示します。</li> <li>• <b>info</b>: 情報タイプのイベントログを表示します。</li> <li>• <b>warning</b>: 警告タイプのイベントログを表示します。</li> </ul>
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、**show diagnostic events switch** *switch-number* **module 2** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show diagnostic events switch 1 module 2

Diagnostic events (storage for 500 events, 500 events recorded)
Number of events matching above criteria = 500
```

## show diagnostic events

Event Type (ET): I - Info, W - Warning, E - Error

Time Stamp	ET	[Card]	Event Message
07/08 13:54:05.110	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 13:55:35.111	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 13:57:05.111	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 13:58:35.613	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:00:05.614	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:01:35.615	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:03:05.616	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:04:36.367	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:06:06.368	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:07:37.370	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:09:07.371	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:10:38.372	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:12:10.873	E	[1-2]	TestThermal Failed
07/08 14:13:41.374	E	[1-2]	TestThermal Failed

<Output truncated>

## show diagnostic result

診断テストの結果の情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show diagnostic result** コマンドを使用します。

```
show diagnostic result switch {switch-number module {1 | 2 | 4} [detail | failure [detail]
| test {test-id | all} [detail] | xml] | all [all [detail | failure [detail]]]}
```

構文の説明		
<b>switch</b> <i>switch-number</i>		選択するスイッチを指定します。
<b>module</b>		スイッチのモジュールを選択します。
<b>1</b>		モジュール C9400-LC-48U の診断テストの結果を表示します。
<b>2</b>		モジュール C9400-SUP-1 の診断テストの結果を表示します。
<b>4</b>		モジュール C9400-LC-48T の診断テストの結果を表示します。
<b>detail</b>		(任意) 詳細なテスト結果を表示します。
<b>failure</b>		(任意) 失敗したテストの結果を表示します。
<b>test</b> <i>test-id</i>		(任意) モジュールの選択したテスト ID またはテスト名か一連のテスト ID について診断テストの結果を表示します。
<b>test</b> <b>all</b>		(任意) モジュールのすべてのテストについて診断テストの結果を表示します。
<b>xml</b>		(任意) テスト結果を XML 形式で表示します。
<b>switch</b> <b>all</b> [ <b>all</b> ]		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>switch all</b> : すべてのスイッチについて診断テストの結果を表示します。</li> <li>• (任意) <b>all</b> : すべてのスイッチのすべてのカードについて診断テストの結果を表示します。</li> </ul>
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

## 例

次に、**show diagnostic result switch *switch-number* module 4 [failure [detail]]** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show diagnostic result switch 1 module 4 failure detail

Current bootup diagnostic level: minimal

switch 1, module 4:   SerialNo : JAE204700PH

Overall Diagnostic Result for switch 1, module 4 : PASS
Diagnostic level at card bootup: minimal

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)
```

次に、**show diagnostic result switch *switch-number* module 4 [detail]** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show diagnostic result switch 1 module 4 detail

Current bootup diagnostic level: minimal

switch 1, module 4:   SerialNo : JAE204700PH

Overall Diagnostic Result for switch 1, module 4 : PASS
Diagnostic level at card bootup: minimal

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)
```

---

1) TestGoldPktLoopback:

```
Port  1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
-----
      U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U

Port 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
-----
      U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U
```

```
Error code -----> 3 (DIAG_SKIPPED)
Total run count -----> 0
Last test testing type -----> n/a
Last test execution time ----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0
```

---

2) TestPhyLoopback:

```
Port  1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
-----
      U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U

Port 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
-----
      U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U
```

```

Error code -----> 3 (DIAG_SKIPPED)
Total run count -----> 0
Last test testing type -----> n/a
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0

```

---

3) TestThermal -----> .

```

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1771
Last test testing type -----> Health Monitoring
Last test execution time -----> Jul 09 2018 03:06:53
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jul 09 2018 03:06:53
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0

```

---

4) TestScratchRegister -----> .

```

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1771
Last test testing type -----> Health Monitoring
Last test execution time -----> Jul 09 2018 03:06:53
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jul 09 2018 03:06:53
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0

```

---

5) TestUnusedPortLoopback:

```

Port  1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
-----
      U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U
Port 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
-----
      U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U  U

```

```

Error code -----> 3 (DIAG_SKIPPED)
Total run count -----> 0
Last test testing type -----> n/a
Last test execution time -----> n/a
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> n/a
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0

```

---

6) TestPortTxMonitoring:

```

Port  1  2  3  4  5  6  7  8  9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24
-----

```

```

. U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U
Port 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48
-----
U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U U .

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 2146
Last test testing type -----> Health Monitoring
Last test execution time ----> Jul 09 2018 03:07:08
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jul 09 2018 03:07:08
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0

```

次に、**show diagnostic result switch *switch-number* module 4 [test [*test-id*]]** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show diagnostic result switch 1 module 4 test 3

Current bootup diagnostic level: minimal

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

3) TestThermal -----> .

Switch#show diagnostic result switch 1 module 4 test 3 detail ?
|   Output modifiers
<cr> <cr>

Switch#show diagnostic result switch 1 module 4 test 3 detail

Current bootup diagnostic level: minimal

Test results: (. = Pass, F = Fail, U = Untested)

-----

3) TestThermal -----> .

Error code -----> 0 (DIAG_SUCCESS)
Total run count -----> 1772
Last test testing type -----> Health Monitoring
Last test execution time ----> Jul 09 2018 03:08:23
First test failure time -----> n/a
Last test failure time -----> n/a
Last test pass time -----> Jul 09 2018 03:08:23
Total failure count -----> 0
Consecutive failure count ---> 0

```

次に、**show diagnostic result switch *switch-number* module 4 [xml]** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show diagnostic result switch 1 module 4 xml

Current bootup diagnostic level: minimal

```

```
<?xml version="1.0" ?><diag>
<diag_results>
<diag_info>
This file report diag test results
</diag_info>
<diag_card_result>
<result overall_result="DIAG_PASS" new_failure="FALSE" diag_level="DIAG_LEVEL_MINIMAL"
/>
<card name="switch 1, module 4" index="3198" serial_no="JAE204700PH" >
<card_no>
9
</card_no>
<total_port>
48
</total_port>
<test name="TestGoldPktLoopback" >
<test_result>
<portmask>
00000000-00000000-00000000-00000000-00000000-00000000-11111111-11111111-11111111</portmask>
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="1" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="2" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="3" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="4" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="5" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="6" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="7" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="8" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="9" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="10" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="11" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="12" />
<per_port_result result="DIAG_RESULT_UNKNOWN" port="13" />

<Output truncated>
```

## show diagnostic simulation failure

スイッチ上のカードの診断障害シミュレーション情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show diagnostic simulation failure** コマンドを使用します。

**show diagnostic simulation failure switch** {*switch-number* **module** {**1** | **2** | **4**} | **all** [**all**]}

### 構文の説明

<b>switch</b> <i>switch-number</i>	選択するスイッチを指定します。
<b>module</b>	スイッチのモジュールを選択します。
<b>1</b>	C9400-LC-48U モジュールの診断障害シミュレーション情報を表示します。
<b>2</b>	C9400-SUP-1 モジュールの診断障害シミュレーション情報を表示します。
<b>4</b>	C9400-LC-48T モジュールの診断障害シミュレーション情報を表示します。
<b>switch all</b> [ <b>all</b> ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>switch all</b> : すべてのスイッチを選択します。</li> <li>• (任意) <b>all</b> : すべてのスイッチのすべての診断障害シミュレーション情報を表示します。</li> </ul>

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、**show diagnostic simulation failure switch all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show diagnostic simulation failure switch all
There is no test failure simulation installed.
```



## show diagnostic schedule

スイッチのカードの診断スケジュール情報を表示するには、特権EXECモードで **show diagnostic schedule** コマンドを使用します。

**show diagnostic schedule switch** {*switch-number* **module** {**1** | **2** | **4**} | **all** [**all**]}

### 構文の説明

<b>switch</b> <i>switch-number</i>	選択するスイッチを指定します。
<b>module</b>	スイッチのモジュールを選択します。
<b>1</b>	C9400-LC-48U モジュールの診断スケジュール情報を表示します。
<b>2</b>	C9400-SUP-1 モジュールの診断スケジュール情報を表示します。
<b>4</b>	C9400-LC-48T モジュールの診断スケジュール情報を表示します。
<b>switch all</b> [ <b>all</b> ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>switch all</b> : すべてのスイッチを選択します。</li> <li>• (任意) <b>all</b> : すべてのスイッチのすべての診断スケジュール情報を表示します。</li> </ul>

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

### 例

次に、**show diagnostic schedule switch** *switch-number* **module 2** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show diagnostic schedule switch 1 module 2
```

```
Current Time = 03:14:24 PDT Mon Jul 9 2018
```

```
Diagnostic for switch 1, module 2 is not scheduled.
```

## show hw-module switch subslot

システムおよびシャーシのロケーション情報でサポートされているすべてのモジュールの情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show hw-module switch switch-number subslot** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### show hw-module switch switch-number subslot

```
{slot/subslot|all{attribute|entity|oir|sensors[limits]|subblock|tech-support}}
```

### no show hw-module switch switch-number subslot

```
{slot/subslot|all{attribute|entity|oir|sensors[limits]|subblock|tech-support}}
```

#### 構文の説明

<i>switch number</i>	アクセスするスイッチを指定します。有効な値は 1 と 2 です。
<b>subslot</b> <i>slot/subslot</i>	モジュールのスロットまたはサブスロット番号を指定します。  slot の有効な値は 1 ~ 4 です。 subslot の有効な値は 0 です。
<b>all</b>	サブスロットレベルのサポートされているすべてのモジュールを選択します。
<b>attribute</b>	モジュールの属性情報を表示します。
<b>entity</b>	エンティティ MIB の詳細を表示します。  (注) 実稼働での使用を目的としたものではありません。
<b>oir</b>	活性挿抜 (OIR) のサマリーを表示します。
<b>sensors</b>	環境センサーのサマリーを表示します。
<b>limits</b>	センサーの制限を表示します。
<b>subblock</b>	サブブロックの詳細を表示します。  (注) 実稼働での使用を目的としたものではありません。
<b>tech-support</b>	テクニカルサポートに使用するサブスロット情報を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンドモード	特権 EXEC (#)
---------	-------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

## 例

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、モジュールの属性情報を取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all attribute
```

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、モジュールの OIR 情報を取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all oir
```

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、環境センサーのサマリーを取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all sensors
```

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、センサーの制限の情報を取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all sensors limit
```

次に、スイッチ 1 のサブスロットレベルのすべてのモジュールについて、テクニカルサポートに使用するサブスロット情報を取得する例を示します。

```
Device# show hw-module switch 1 subslot all tech-support
```

## show logging onboard switch

スイッチのオンボード障害ロギング（OBFL）情報を表示するには、特権EXECモードで **show logging onboard switch** コマンドを使用します。

```
show logging onboard switch {switch-number | active | standby} {RP {standby | active}
| slot {1 | 4 | F0 | F1 | R0 | R1}} {{clilog | counter | environment | message
| poe | temperature | uptimevo | voltage} [continuous | detail | summary] [start
hh:mm:ss day month year] [end hh:mm:ss day month year] } | state | status}
```

構文の説明		
	<i>switch-number</i>	OBFL 情報を表示するスイッチ。
	<b>active</b>	アクティブスイッチに関する OBFL 情報を表示します。
	<b>standby</b>	スタンバイスイッチに関する OBFL 情報を表示します。
	<b>RP</b>	ルートプロセッサ（RP）を指定します。
	<b>slot</b>	スロット情報を指定します。
	<b>clilog</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバで入力された OBFL コマンドを表示します。
	<b>counter</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバのカウンタを表示します。
	<b>environment</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの固有デバイス識別子（UDI）情報を表示します。接続中のすべての FRU デバイスの製品 ID（PID）、バージョン ID（VID）、シリアル番号も表示します。
	<b>message</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバによって生成されたハードウェア関連のシステムメッセージを表示します。
	<b>poe</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの Power over Ethernet（PoE）ポートの消費電力を表示します。
	<b>state</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの状態を表示します。
	<b>status</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバのステータスを表示します。
	<b>temperature</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの温度を表示します。

<b>uptime</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの起動時刻、スタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの再起動の理由、およびスタンドアロンスイッチまたは指定したスタックメンバの最後の再起動からの稼働時間を表示します。
<b>voltage</b>	スタンドアロンスイッチまたは指定したスイッチスタックメンバのシステム電圧を表示します。
<b>continuous</b>	(任意) 連続ファイルのデータを表示します。
<b>detail</b>	(任意) 連続データおよびサマリーデータの両方を表示します。
<b>summary</b>	(任意) サマリーファイルのデータを表示します。
<b>start hh:mm:ss day month year</b>	(任意) 指定した日時からのデータを表示します。24時間表記の2桁の数値で時刻を入力します。13:32:45のように、必ずコロン(:)を使用してください。dayの範囲は1～31です。monthは大文字または小文字で入力します。January または august など、月の名前をすべて入力することも、jan または Aug のように月の名前の最初の3文字を入力することもできます。year は、2008 のように4桁の数字で入力します。範囲は1970～2099です。
<b>end hh:mm:ss day month year</b>	(任意) 指定した日時までのデータを表示します。24時間表記の2桁の数値で時刻を入力します。13:32:45のように、必ずコロン(:)を使用してください。dayの範囲は1～31です。monthは大文字または小文字で入力します。January または august など、月の名前をすべて入力することも、jan または Aug のように月の名前の最初の3文字を入力することもできます。year は、2008 のように4桁の数字で入力します。範囲は1970～2099です。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

OBFL がイネーブルの場合、スイッチはすべてのデータが格納される連続ファイルに OBFL データを記録します。連続ファイルは循環式です。連続ファイルがいっぱいになると、スイッチはサマリーファイル(別名、履歴ファイル)にデータをまとめます。サマリーファイルを作成すると、連続ファイルのスペースが解放されるので、スイッチは新しいデータを書き込めます。

特定の時間内にだけ収集されたデータを表示するには、**start** キーワードと **end** キーワードを使用します。

## 例

次に、**show logging onboard switch 1 RP active message** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch 1 RP active message

-----
ERROR MESSAGE SUMMARY INFORMATION
-----
MM/DD/YYYY HH:MM:SS Facility-Sev-Name | Count | Persistence Flag
-----
07/06/2018 00:45:23 %IOSXE-2-DIAGNOSTICS_FAILED : >254 LAST Diagnostics Thermal failed
07/06/2018 00:19:57 %IOSXE-2-DIAGNOSTICS_PASSED : >254 LAST Diagnostics Fantray passed
07/07/2018 11:36:10 %IOSXE-2-TRANSCEIVER_INSERTED : >254 LAST Transceiver module
inserted in TenGigabitEthernet1/2/0/5
05/03/2018 05:49:57 %IOSXE-2-TRANSCEIVER_REMOVED : 82 : LAST : Transceiver module
removed from TenGigabitEthernet1/2/0/7
07/07/2018 08:20:36 %IOSXE-2-SPA_REMOVED : >254 LAST SPA removed from subslot 14/0
07/06/2018 01:50:33 %IOSXE-2-SPA_INSERTED : >254 LAST SPA inserted in subslot 11/0
-----
```

次に、**show logging onboard switch 1 slot 4 status** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch 1 slot 4 status
```

```
-----
OBFL Application Status
-----
Application Uptime:
    Path: /obfl0/
    Cli enable status: enabled
Application Message:
    Path: /obfl0/
    Cli enable status: enabled
Application Voltage:
    Path: /obfl0/
    Cli enable status: enabled
Application Temperature:
    Path: /obfl0/
    Cli enable status: enabled
Application POE:
    Path: /obfl0/
    Cli enable status: enabled
Application Environment:
    Path: /obfl0/
    Cli enable status: enabled
Application Counter:
    Path: /obfl0/
    Cli enable status: enabled
Application Clilog:
    Path: /obfl0/
    Cli enable status: enabled
```

次に、**show logging onboard switch 1 slot 4 state** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch 1 slot 4 state
```

```
GREEN
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>clear logging onboard</b>	フラッシュメモリから OBFL データを削除します。
<b>hw-module logging onboard</b>	OBFL をイネーブルにします。

## show platform pm l2bum-status

レイヤ2ブロードキャスト、ユニキャスト、マルチキャスト（BUM）トラフィックの最適化のグローバルステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform pm l2bum-status** コマンドを使用します。

### show platform pm l2bum-status

構文の説明	<b>pm</b> プラットフォームのポートマネージャ情報を表示します。				
	<b>l2bum-status</b> レイヤ2BUMトラフィック最適化のグローバルステータスを表示します。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	特権 EXEC (#)				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x	このコマンドが導入されました。				

例：

次に、**show platform pm l2bum-status** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform pm l2bum-status
Layer2 BUM SVL Optimization is Enabled Globally
```



## show platform pm l2bum-status vlan

VLAN の転送物理ポート数を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform pm l2bum-status vlan***vlan-id* コマンドを使用します。

**show platform pm l2bum-status***vlan**vlan-id*

構文の説明	<b>pm</b>	プラットフォームのポートマネージャ情報を表示します。
	<b>l2bum-status</b>	レイヤ2BUMトラフィック最適化のグローバルステータスを表示します。
	<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	VLAN の転送物理ポート数を表示します。 VLAN ID の範囲は 1 ~ 4093 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x	このコマンドが導入されました。

例 :

次に、**show platform pm l2bum-status vlan** *vlan-id* コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform pm l2bum-status vlan 1
Vlan      Physical  port forwarding count
-----  -
1         2
```

## show platform software fed

FED と Network Interface Manager (NIF Mgr) のソフトウェアプロセス間におけるポート単位の SDP/LMP 制御パケット交換履歴を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software fed** コマンドを使用します。

```
show platform software fed switch {switch-number | active | standby} fss {counters
| interface-counters interface {interface-type interface-number} | lmp-packets interface
{interface-type interface-number} | sdp-packets
```

### 構文の説明

<b>switch</b> { <i>switch-number</i>   <b>active</b>   <b>standby</b> }	スイッチに関する情報を表示します。次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i></li> <li>• <b>active</b> : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。</li> <li>• <b>standby</b> : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。</li> </ul> <p>(注) このキーワードはサポートされていません。</p>
<b>fss</b>	前面スタック構成 (FSS) に関する情報を指定します。
<b>counters</b>	SDP、LMP、OOB1/2、EMP、および LOOPBACK タイプの TX パケットと RX パケットの数を表示します。
<b>interface-counters</b>	すべてのインターフェイスについて、TX パケットと RX パケットの数を表示します。特定の SVL インターフェイスについての情報を表示するように出力をフィルタ処理するには、 <b>interface-counters interface</b> { <i>interface-type interface-number</i> } コマンドを使用します。
<b>lmp-packets</b>	すべての SVL インターフェイスについて、FED と NIF Manager の間でやり取りされた LMP パケットトランザクションの詳細を表示します。特定の SVL インターフェイスについての情報を表示するように出力をフィルタ処理するには、 <b>lmp-packets interface</b> { <i>interface-type interface-number</i> } コマンドを使用します。
<b>sdp-packets</b>	すべての SVL インターフェイスについて、FED と NIF Manager の間で送信された SDP パケットの詳細を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴 リリース 変更内容

Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1 このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** デフォルトでは、**show platform software fed switch active fss sdp-packets** コマンドの出力にパケットキャッシュ数が10と表示されます。ポート単位のパケットキャッシュ数は、**set platform software fed switch** コマンドを使用して最大 600 に設定できます。

### 例

次に、**show platform software fed switch active fss lmp-packets interface interface-type interface-number** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software fed switch active fss lmp-packets interface
fortygigabitethernet1/0/1
```

```
Interface: fortygigabitethernet1/0/1 IFID:0x1d
FED FSS LMP packets max 10:
```

```
FED --> Nif Mgr
Timestamp                Local      Peer      Seq
                        LPN        LPN        Num
-----
Tue Sep 18 12:45:13 2018    11        11        4329
Tue Sep 18 12:45:14 2018    11        11        4330
```

次に、**show platform software fed switch active fss sdp-packets** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software fed switch active fss sdp-packets
FED FSS SDP packets max 10:
```

```
FED-> Nif Mgr
Timestamp                Src Mac          Dst Mac.         Seq Num
-----
Thu Oct  4 05:54:04 2018    e4aa:5d54:8aa8  ffff:ffff:ffff  262
Thu Oct  4 05:54:08 2018    e4aa:5d54:8aa8  ffff:ffff:ffff  263
Thu Oct  4 05:54:12 2018    e4aa:5d54:8aa8  ffff:ffff:ffff  264
```

次に、**show platform software fed switch active fss counters** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software fed switch active fss counters
```

```
FSS Packet Counters
SDP
TX | RX
-----
1493          1494

LMP
TX | RX
-----
4988          4988

OOB1
TX | RX
-----
22           8

OOB2
TX | RX
-----
134858       133833

EMP
TX | RX
-----
0           0

LOOPBACK
-----
71
```

次に、**show platform software fed switch active fss interface-counters interface interface-type interface-number** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software fed switch active fss interface-counters
fortygigabitethernet1/0/1
```

```
Interface fortygigabitethernet1/0/1 IFID: 0x1d Counters
          LMP
TX      |      RX
-----
6391    |    6389
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>set platform software fed switch</b>	SVL インターフェイスのポート単位のパケットキャッシュ数を設定します。

## show platform software fed switch fss bum-opt summary

前面スタック構成（FSS）のBUMトラフィック最適化に関する情報を表示するには、特権EXECモードで **show platform software fed switch fss bum-opt summary** コマンドを使用します。

**show platform software fed switch** {*switch-number* | **active** | **standby**} {**fssbum-optsummary**}

### 構文の説明

**switch** {*switch-number* | **active** | **standby**} スイッチに関する情報を表示します。次の選択肢があります。

- *switch-number* : スイッチ番号を指定します。使用可能なスイッチ番号は1と2です。
- **active** : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。
- **standby** : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。

<b>fss</b>	前面スタック構成（FSS）情報を表示します。
<b>bum-opt</b>	FSS BUMトラフィック最適化情報を表示します。
<b>summary</b>	FSS BUMトラフィック最適化の概要を表示します。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x	このコマンドが導入されました。

例：

次に、**show platform software fed switch 1 fss bum-opt summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software fed switch 1 fss bum-opt summary
FSS BUM Traffic Optimization Summary
=====
Vlan 1: Opt en 0, svl added 1 l2tun 0 ECs:20
Vlan 2: Opt en 1, svl added 0 l2tun 0 ECs:
Etherchannel 1: Local 0, Remote 0 Vlans:
Etherchannel 20: Local 1, Remote 0 Vlans:1
```

# show platform software l2\_sv1\_bum forwarding-manager switch

スイッチのフォワーディング マネージャ レイヤ 2 BUMトラフィック最適化情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software l2\_sv1\_bum forwarding-manager switch** コマンドを使用します。

**show platform software l2\_sv1\_bum forwarding-managerswitch** {*switch-number* | **active** | **standby**} {**F0** {*vlan* *vlan-id* | **R0** {*entries*}}

## 構文の説明

<b>switch</b> { <i>switch-number</i>   <b>active</b>   <b>standby</b> }	スイッチに関する情報を表示します。次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>switch-number</b> : スイッチ番号を指定します。範囲は 1 ~ 16 です。</li> <li>• <b>active</b> : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。</li> <li>• <b>standby</b> : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。</li> </ul>
<b>F0</b> <i>vlan</i> <i>vlan-id</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>F0</b> : Embedded Service Processor スロット 0 に関する情報を表示します。</li> <li>• <b>vlan</b> <i>vlan-id</i> : VLAN ID を指定します。 VLAN ID の範囲は 1 ~ 65535 です。</li> </ul>
<b>R0</b> <i>entries</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>R0</b> : ルートプロセッサ (RP) スロット 0 に関する情報を表示します。</li> <li>• <b>entries</b> : VLAN の SVL リンクの最適化エントリを表示します。</li> </ul>

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x	このコマンドが導入されました。

例 :

次に、**show platform software l2\_sv1\_bum forwarding-manager switch active F0 vlan** *vlan-id* コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software l2_sv1_bum forwarding-manager switch active F0 vlan 200
Displaying fmanfp l2_sv1_bum opt_info
=====
```

```
Vlan          Vlan opt_state   Global opt state
-----
200           Opt_ON           Opt_ON
```

次に、**show platform software l2\_svl\_bum forwarding-manager switch active R0 entries** コマンドの出力例を示します。

```
Device#show platform software l2_svl_bum forwarding-manager switch active R0 entries
Displaying fmanrp l2_svl_bum opt_info
=====
```

```
Vlan          Vlan_opt_state   Global_opt_state
-----
1             Opt_OFF           Opt_ON
200           Opt_ON            Opt_ON
```

## show platform software nif-mgr switch

Network Interface Manager (NIF Mgr) ソフトウェアプロセスと StackWise Virtual リンク (SVL) インターフェイスの間における制御パケット交換履歴を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software nif-mgr switch** コマンドを使用します。

```
show platform software nif-mgr switch {switch-number | active | standby} R0{counters [lpn
lpn-index]| packets [lpn lpn-index ]| switch-info}
```

```
show platform software nif-mgr switch {switch-number | active | standby}
R0counters{slotslot-number }{port port-number }packets{slotslot-number }{port port-number
}{switch-info}
```

### 構文の説明

<b>switch</b> {switch-number   active   standby}	スイッチに関する情報を表示します。次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>switch-number</i>。</li> <li>• <b>active</b> : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。</li> <li>• <b>standby</b> : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。</li> </ul> <p>(注) このキーワードはサポートされていません。</p>
<b>R0</b>	ルートプロセッサ (RP) スロット 0 に関する情報を表示します。
<b>counters</b>	LMP および SDP タイプの TX パケットと RX パケットの数を表示します。
<b>lpn lpn-index</b>	ローカルポート番号 (LPN) を指定します。範囲は 1 ~ 96 です。 <i>lpn-index</i> に関する情報については <b>show platform software nif-mgr switch active R0 switch-info</b> コマンドを使用してください。
<b>packets</b>	LMP および SDP タイプの TX パケットと RX パケットの詳細を表示します。
<b>switch-info</b>	NIF Manager の運用データベースに関する情報を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴 リリース 変更内容

Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1 このコマンドが導入されました。



**使用上のガイドライン** **show platform software nif-mgr switch active R0 counters** コマンドの出力には、送信された LMP および SDP パケットのカウンタが表示されます。

**show platform software nif-mgr switch active R0 switch-info** コマンドの出力には、SVL リンクの詳細と各リンクにおけるプロトコルのフラップ数が表示されます。

- LMP から FED
- SDP から FED
- FED から LMP
- FED から SDP
- Stack Manager から SDP
- SDP から Stack Manager

**show platform software nif-mgr switch active R0 packets** コマンドの出力には、送信された LMP および SDP パケットのタイムスタンプの詳細が表示されます。

- FED からの最後の 10 個の LMP フレームのタイムスタンプ
- FED への最後の 10 個の LMP フレームのタイムスタンプ
- Stack Manager からの最後の 10 個の SDP フレームのタイムスタンプ
- Stack Manager への最後の 10 個の SDP フレームのタイムスタンプ

デフォルトでは、ブートアップ時の SVL ポート単位のパケットキャッシュ数は 10 です。ポート単位のパケットキャッシュ数を設定するには、**set platform software nif-mgr switch** コマンドを使用します。

## 例

次に、**show platform software nif-mgr switch active R0 counters** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software nif-mgr switch active R0 counters
NIF Manager Counters
  Counters:
#####
Stack Link : 1
=====
FED to NIF Mgr
-----
Number of LMP RX Packets : 749
NIF Mgr to FED
-----
Number of LMP TX Packets : 758
Stack Link : 2
=====
FED to NIF Mgr
-----
Number of LMP RX Packets : 0
NIF Mgr to FED
-----
```

```

Number of LMP TX Packets : 0

NIF Mgr to Stack Mgr
-----
Number of SDP Success Packets - 1854
Number of SDP Fail Packets - 0
Stack Mgr to NIF Mgr
-----
Number of SDP Success Packets - 1850
Number of SDP Fail Packets - 0

```

次に、**show platform software nif-mgr switch active R0 counters lpn lpn-index** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show platform software nif_mgr switch active r0 counters lpn 1
Counters:
#####
LPN : 1 Stack Link : 1 port 1
=====
FED to NIF Mgr
-----
Number of LMP RX Packets : 760
NIF Mgr to FED
-----
Number of LMP TX Packets : 768

```

次に、**show platform software nif-mgr switch active R0 packets** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show platform software nif-mgr switch active R0 packets
NIF manager packets max 10:

Stack Link : 1
LMP
-----
FED->
Nif Mgr
Timestamp                               Local   Peer    Seq
                                         LPN    LPN     Num
-----
Wed Jun 20 02:20:49 2018             3       3      1050
Wed Jun 20 02:20:50 2018             3       3      1051
Wed Jun 20 02:20:41 2018             3       3      1042
Wed Jun 20 02:20:42 2018             3       3      1043
Wed Jun 20 02:20:43 2018             3       3      1044
Wed Jun 20 02:20:44 2018             3       3      1045
Wed Jun 20 02:20:45 2018             3       3      1046
Wed Jun 20 02:20:46 2018             3       3      1047
Wed Jun 20 02:20:47 2018             3       3      1048
Wed Jun 20 02:20:48 2018             3       3      1049

Nif Mgr->
FED
Timestamp                               Local   Peer    Seq
                                         LPN    LPN     Num
-----
Wed Jun 20 02:20:49 2018             3       3      1050
Wed Jun 20 02:20:50 2018             3       3      1051
Wed Jun 20 02:20:41 2018             3       3      1042
Wed Jun 20 02:20:42 2018             3       3      1043
Wed Jun 20 02:20:43 2018             3       3      1044
Wed Jun 20 02:20:44 2018             3       3      1045

```

```

Wed Jun 20 02:20:45 2018      3      3      1046
Wed Jun 20 02:20:46 2018      3      3      1047
Wed Jun 20 02:20:47 2018      3      3      1048
Wed Jun 20 02:20:48 2018      3      3      1049
    
```

SDP

-----

Nif Mgr->

Stack Mgr

Timestamp	Src Mac	Dst Mac	Seq Num
-----------	---------	---------	---------

Wed Jun 20 02:20:40 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	320
Wed Jun 20 02:20:44 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	321
Wed Jun 20 02:20:48 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	322
Wed Jun 20 02:20:12 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	313
Wed Jun 20 02:20:16 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	314
Wed Jun 20 02:20:20 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	315
Wed Jun 20 02:20:24 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	316
Wed Jun 20 02:20:28 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	317
Wed Jun 20 02:20:32 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	318
Wed Jun 20 02:20:36 2018	40ce:2499:aa90	ffff:ffff:ffff	319

Stack Mgr->

Nif Mgr

Timestamp	Src Mac	Dst Mac	Seq Num
-----------	---------	---------	---------

Wed Jun 20 02:20:17 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	310
Wed Jun 20 02:20:21 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	311
Wed Jun 20 02:20:25 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	312
Wed Jun 20 02:20:29 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	313
Wed Jun 20 02:20:33 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	314
Wed Jun 20 02:20:37 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	315
Wed Jun 20 02:20:41 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	316
Wed Jun 20 02:20:45 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	317
Wed Jun 20 02:20:49 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	318
Wed Jun 20 02:20:13 2018	40ce:2499:a9d0	ffff:ffff:ffff	309

関連コマンド

コマンド	説明
<b>set platform software nif-mgr switch</b>	SVLインターフェイスのポート単位のパケットキャッシュ数を設定します。

# show redundancy

冗長ファシリティ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show redundancy** コマンドを使用します。

```
show redundancy [{clients|config-sync|counters|history [{reload|reverse}]|slaves[slave-name]
{clients|counters}|states|switchover history [domain default]]
```

## 構文の説明

<b>clients</b>	(任意) 冗長ファシリティクライアントに関する情報を表示します。
<b>config-sync</b>	(任意) コンフィギュレーション同期の失敗または無視された Mismatched Command List (MCL) を表示します。
<b>counters</b>	(任意) 冗長ファシリティカウンタに関する情報を表示します。
<b>history</b>	(任意) 冗長ファシリティの過去のステータスのログおよび関連情報を表示します。
<b>history reload</b>	(任意) 冗長ファシリティの過去のリロード情報を表示します。
<b>history reverse</b>	(任意) 冗長ファシリティの過去のステータスおよび関連情報のログを逆順で表示します。
<b>slaves</b>	(任意) 冗長ファシリティのすべてのスタンバイスイッチを表示します。
<i>slave-name</i>	(任意) 特定の情報を表示する冗長スタンバイスイッチの名前。指定スタンバイスイッチのすべてのクライアントまたはカウンタを表示するには、追加でキーワードを入力します。
<b>clients</b>	指定セカンダリスイッチのすべての冗長ファシリティクライアントを表示します。
<b>counters</b>	指定スタンバイスイッチのすべてのカウンタが表示されます。
<b>states</b>	(任意) 冗長ファシリティの状態 (ディセーブル、初期化、スタンバイ、アクティブなど) に関する情報を表示します。
<b>switchover history</b>	(任意) 冗長ファシリティのスイッチオーバー履歴に関する情報を表示します。
<b>domain default</b>	(任意) スイッチオーバー履歴を表示するドメインとしてデフォルトドメインを表示します。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード 特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

## リリース

## 変更内容

---

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a このコマンドが導入されました。

---

次の例では、冗長ファシリティに関する情報を表示する方法を示します。

Device# **show redundancy**

Redundant System Information :

```
-----
Available system uptime = 6 days, 5 hours, 28 minutes
Switchovers system experienced = 0
Standby failures = 0
Last switchover reason = none
```

```
Hardware Mode = Duplex
Configured Redundancy Mode = sso
Operating Redundancy Mode = sso
Maintenance Mode = Disabled
Communications = Up
```

Current Processor Information :

```
-----
Active Location = slot 5
Current Software state = ACTIVE
Uptime in current state = 6 days, 5 hours, 28 minutes
Image Version = Cisco IOS Software, Catalyst L3 Switch Software
(CAT9K_IOSXE), Experimental Version 16.x.x [S2C-build-v16x_throttle-4064-/
nobackup/mcpred/BLD-BLD_V16x_THROTTLE_LATEST 102]
Copyright (c) 1986-201x by Cisco Systems, Inc.
Compiled Mon 07-Oct-xx 03:57 by mcpred
BOOT = bootflash:packages.conf;
Configuration register = 0x102
```

Peer Processor Information :

```
-----
Standby Location = slot 6
Current Software state = STANDBY HOT
Uptime in current state = 6 days, 5 hours, 25 minutes
Image Version = Cisco IOS Software, Catalyst L3 Switch Software
(CAT9K_IOSXE), Experimental Version 16.x.x [S2C-build-v16x_throttle-4064-/
nobackup/mcpred/BLD-BLD_V16x_THROTTLE_LATEST_20191007_000645 102]
Copyright (c) 1986-201x by Cisco Systems, Inc.
Compiled Mon 07-Oct-xx 03:57 by mcpred
BOOT = bootflash:packages.conf;
CONFIG_FILE =
Configuration register = 0x102
```

Device#

次の例では、冗長ファシリティクライアント情報を表示する方法を示します。

Device# **show redundancy clients**

```
Group ID = 1
clientID = 29      clientSeq = 60      Redundancy Mode RF
clientID = 139     clientSeq = 62      IfIndex
clientID = 25      clientSeq = 71      CHKPT RF
clientID = 10001   clientSeq = 85      QEMU Platform RF
clientID = 77      clientSeq = 87      Event Manager
clientID = 1340    clientSeq = 104     RP Platform RF
clientID = 1501    clientSeq = 105     CWAN HA
clientID = 78      clientSeq = 109     TSPTUN HA
```

```

clientID = 305      clientSeq = 110      Multicast ISSU Consolidation RF
clientID = 304      clientSeq = 111      IP multicast RF Client
clientID = 22       clientSeq = 112      Network RF Client
clientID = 88       clientSeq = 113      HSRP
clientID = 114      clientSeq = 114      GLBP
clientID = 225      clientSeq = 115      VRRP
clientID = 4700     clientSeq = 118      COND_DEBUG RF
clientID = 1341     clientSeq = 119      IOSXE DPIDX
clientID = 1505     clientSeq = 120      IOSXE SPA TSM
clientID = 75       clientSeq = 130      Tableid HA
clientID = 501      clientSeq = 137      LAN-Switch VTP VLAN

```

<output truncated>

出力には、次の情報が表示されます。

- **clientID** には、クライアントの ID 番号が表示されます。
- **clientSeq** には、クライアントの通知シーケンス番号が表示されます。
- 現在の冗長ファシリティの状態。

次の例では、冗長ファシリティカウンタ情報を表示する方法を示します。

Device# **show redundancy counters**

```

Redundancy Facility OMs
  comm link up = 0
  comm link down = 0

  invalid client tx = 0
  null tx by client = 0
  tx failures = 0
  tx msg length invalid = 0

  client not rxing msgs = 0
  rx peer msg routing errors = 0
  null peer msg rx = 0
  errored peer msg rx = 0

  buffers tx = 135884
  tx buffers unavailable = 0
  buffers rx = 135109
  buffer release errors = 0

  duplicate client registers = 0
  failed to register client = 0
  Invalid client syncs = 0

```

Device#

次の例では、冗長ファシリティ履歴情報を表示する方法を示します。

Device# **show redundancy history**

```

00:00:04 client added: Redundancy Mode RF(29) seq=60
00:00:04 client added: IfIndex(139) seq=62
00:00:04 client added: CHKPT RF(25) seq=71
00:00:04 client added: QEMU Platform RF(10001) seq=85
00:00:04 client added: Event Manager(77) seq=87
00:00:04 client added: RP Platform RF(1340) seq=104
00:00:04 client added: CWAN HA(1501) seq=105
00:00:04 client added: Network RF Client(22) seq=112

```

```

00:00:04 client added: IOSXE SPA TSM(1505) seq=120
00:00:04 client added: LAN-Switch VTP VLAN(501) seq=137
00:00:04 client added: XDR RRP RF Client(71) seq=139
00:00:04 client added: CEF RRP RF Client(24) seq=140
00:00:04 client added: MFIB RRP RF Client(306) seq=150
00:00:04 client added: RFS RF(520) seq=163
00:00:04 client added: klib(33014) seq=167
00:00:04 client added: Config Sync RF client(5) seq=168
00:00:04 client added: NGWC FEC Rf client(10007) seq=173
00:00:04 client added: LAN-Switch Port Manager(502) seq=190
00:00:04 client added: Access Tunnel(530) seq=192
00:00:04 client added: Mac address Table Manager(519) seq=193
00:00:04 client added: DHCPC(100) seq=238
00:00:04 client added: DHCPD(101) seq=239
00:00:04 client added: SNMP RF Client(34) seq=251
00:00:04 client added: CWAN APS HA RF Client(1502) seq=252
00:00:04 client added: History RF Client(35) seq=261

```

<output truncated>

次の例では、冗長ファシリティスタンバイスイッチに関する情報を表示する方法を示します。

```
Device# show redundancy slaves
```

```

Group ID = 1
Slave/Process ID = 6107 Slave Name = [installer]
Slave/Process ID = 6109 Slave Name = [eicored]
Slave/Process ID = 6128 Slave Name = [snmp_subagent]
Slave/Process ID = 8897 Slave Name = [wcm]
Slave/Process ID = 8898 Slave Name = [table_mgr]
Slave/Process ID = 8901 Slave Name = [iosd]

```

```
Device#
```

次の例では、冗長ファシリティの状態に関する情報を表示する方法を示します。

```
Device# show redundancy states
```

```

    my state = 13 -ACTIVE
    peer state = 8 -STANDBY HOT
    Mode = Duplex
    Unit = Primary
    Unit ID = 5

Redundancy Mode (Operational) = sso
Redundancy Mode (Configured) = sso
Redundancy State = sso
    Maintenance Mode = Disabled
    Manual Swact = enabled
    Communications = Up

    client count = 115
    client_notification_TMR = 30000 milliseconds
    RF debug mask = 0x0

Device#

```

## show redundancy config-sync

コンフィギュレーション同期障害情報または無視された Mismatched Command List (MCL) (存在する場合) を表示するには、EXEC モードで **show redundancy config-sync** コマンドを使用します。

**show redundancy config-sync {failures {bem|mcl|prc}|ignored failures mcl}**

構文の説明	failures	MCL エントリまたはベスト エフォート方式 (BEM) /パーサー リターンコード (PRC) の障害を表示します。
	<b>bem</b>	BEM 障害コマンドリストを表示し、スタンバイスイッチを強制的にリブートします。
	<b>mcl</b>	スイッチの実行コンフィギュレーションに存在するがスタンバイスイッチのイメージでサポートされていないコマンドを表示し、スタンバイスイッチを強制的にリブートします。
	<b>prc</b>	PRC 障害コマンドリストを表示し、スタンバイスイッチを強制的にリブートします。
	<b>ignored failures mcl</b>	無視された MCL 障害を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード ユーザ EXEC  
特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 2つのバージョンの Cisco IOS イメージが含まれている場合は、それぞれのイメージによってサポートされるコマンドセットが異なる可能性があります。このような不一致コマンドのいずれかがアクティブスイッチで実行された場合、スタンバイスイッチでそのコマンドを認識できない可能性があり、これにより設定の不一致状態が発生します。バルク同期中にスタンバイスイッチでコマンドの構文チェックが失敗すると、コマンドはMCLに移動し、スタンバイスイッチはリセットされます。すべての不一致コマンドを表示するには、**show redundancy config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順を実行します。

1. アクティブスイッチの実行コンフィギュレーションから、不一致コマンドをすべて削除します。



2. **redundancy config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づいて MCL を再確認します。
3. スタンバイスイッチをリロードします。

または、次の手順を実行して MCL を無視することもできます。

1. **redundancy config-sync ignore mismatched-commands** コマンドを入力します。
2. スタンバイスイッチをリロードします。システムは SSO モードに遷移します。



---

(注) 不一致コマンドを無視する場合、アクティブスイッチとスタンバイスイッチの同期していないコンフィギュレーションは存在したままです。

---

3. 無視された MCL は、**show redundancy config-sync ignored mcl** コマンドを使用して確認できます。

各コマンドでは、そのコマンドを実装するアクション機能において戻りコードが設定されます。この戻りコードは、コマンドが正常に実行されたかどうかを示します。アクティブスイッチは、コマンドの実行後に PRC を維持します。スタンバイスイッチはコマンドを実行し、アクティブスイッチに PRC を返します。これら2つの PRC が一致しないと、PRC 障害が発生します。バルク同期または1行ごとの (LBL) 同期中にスタンバイスイッチで PRC エラーが生じた場合、スタンバイスイッチはリセットされます。すべての PRC 障害を表示するには、**show redundancy config-sync failures prc** コマンドを使用します。

ベストエフォート方式 (BEM) エラーを表示するには、**show redundancy config-sync failures bem** コマンドを使用します。

次に、BEM 障害を表示する例を示します。

```
Device> show redundancy config-sync failures bem
BEM Failed Command List
-----

The list is Empty
```

次に、MCL 障害を表示する例を示します。

```
Device> show redundancy config-sync failures mcl
Mismatched Command List
-----

The list is Empty
```

次に、PRC 障害を表示する例を示します。

```
Device# show redundancy config-sync failures prc
PRC Failed Command List
-----

The list is Empty
```

# show secure-stackwise-virtual

Secure StackWise Virtual の設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **showsecure-stackwise-virtual** コマンドを使用します。

**show secure stackwise-virtual** { **authorization-key** | **interface***interface-id* | **status**

構文の説明	<b>authorization-key</b> デバイスにインストールされている Secure StackWise Virtual 認証キーを表示します。				
	<b>interface</b> <i>interface-id</i> StackWise Virtual interface インターフェイスの統計情報を表示します。				
	<b>status</b> デバイスの Secure StackWise Virtual のステータスを表示します。				
コマンド デフォルト	なし				
コマンド モード	特権 EXEC (#)				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.x	このコマンドが導入されました。				

例：

次に、**show secure-stackwise-virtual authorization key** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show secure-stackwise-virtual authorization-key
SECURE-SVL: Stored key (16) : FACEFACEFACEFACEFACEFACEFACEFACE
```

次に、**show secure-stackwise-virtual interface** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show secure-stackwise-virtual interface fortyGigabitEthernet 1/0/10
Secure-SVL is enabled
  Replay protect      : Strict
  Replay window      : 0
  Cipher              : GCM-AES-XPN-128
  Session Number     : 0
  Number of Rekeys   : 0

  Transmit Secure-SVL Channel
    Encrypt Pkts      : 80245
    Cumulative Encrypt Pkts : 80245

  Receive Secure-SVL Channel
    Valid Pkts        : 80927
    Invalid Pkts      : 0
    Delay Pkts        : 0
    Cumulative Valid Pkts : 80927

  Port Statistics
    Egress untag pkts : 0
    Ingress untag pkts : 0
```

```
Ingress notag pkts   : 0  
Ingress badtag pkts : 0  
Ingress noSCI pkts  : 0
```

次に、**show secure-stackwise-virtual status** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show secure-stackwise-virtual status  
Switch is running in SECURE-SVL mode
```

## show stackwise-virtual

Cisco StackWise Virtual の設定情報を表示するには、**show stackwise-virtual** コマンドを使用します。

```
show stackwise-virtual { [switch [switch number <1-2>] {link | bandwidth | neighbors |
dual-active-detection} }
```

構文の説明	switch number	(任意) スタック内の特定のスイッチの情報を表示します。
	link	Stackwise Virtual リンク情報を表示します。
	bandwidth	Stackwise Virtual の帯域幅の可用性を表示します。
	neighbors	Stackwise Virtual のネイバーを表示します。
	dual-active-detection	Stackwise Virtual のデュアルアクティブ検出情報を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例 :

次に、**show stackwise-virtual** コマンドの出力例を示します。

```
デバイス# show stackwise-virtual

Stackwise Virtual: <Enabled/Disabled>
Domain Number:    <Domain Number>
Switch    Stackwise Virtual Link    Ports
-----
1          1          Tengigabitethernet1/0/4
           2          Tengigabitethernet1/0/5
2          1          Tengigabitethernet2/0/4
           2          Tengigabitethernet2/0/5
```

次に、**show stackwise-virtual link** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show stackwise-virtual link

Stackwise Virtual Link (SVL) Information:
-----
Flags:
-----
Link Status
-----
U-Up D-Down
Protocol Status
-----
S-Suspended P-Pending E-Error T-Timeout R-Ready
-----
Switch   SVL     Ports                               Link-Status   Protocol-Status
-----   -
1         1       FortyGigabitEthernet1/1/1         U              R
2         1       FortyGigabitEthernet2/1/1         U              R

```

次に、**show stackwise-virtual bandwidth** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show stackwise-virtual bandwidth

Switch   Bandwidth
-----
1         160
2         160

```

次に、**show stackwise-virtual neighbors** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show stackwise-virtual neighbors

Switch Number           Local Interface           Remote Interface
-----
1                       Tengigabitethernet1/0/1  Tengigabitethernet2/0/1
                       Tengigabitethernet1/0/2  Tengigabitethernet2/0/2
2                       Tengigabitethernet2/0/1  Tengigabitethernet1/0/1
                       Tengigabitethernet2/0/2  Tengigabitethernet2/0/2

```

次に、**show stackwise-virtual dual-active-detection** コマンドの出力例を示します。

```

デバイス# show stackwise-virtual dual-active-detection

Stackwise Virtual Dual-Active-Detection (DAD) Configuration:
Switch Number           Dual-Active-Detection Interface
-----
1                       Tengigabitethernet1/0/10
                       Tengigabitethernet1/0/11
2                       Tengigabitethernet2/0/12
                       Tengigabitethernet2/0/13

Stackwise Virtual Dual-Active-Detection (DAD) Configuration After Reboot:
Switch Number           Dual-Active-Detection Interface
-----
1                       Tengigabitethernet1/0/10
                       Tengigabitethernet1/0/11
2                       Tengigabitethernet2/0/12
                       Tengigabitethernet2/0/13

```

# show tech-support stack

テクニカルサポートに使用するスイッチスタック関連のすべての情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support stack** コマンドを使用します。

## show tech-support stack

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.1	このコマンドの出力が拡張され、より多くのスタック関連情報が含まれるようになりました。

### 使用上のガイドライン

**show tech-support stack** コマンドは、スタック構成の状態のスナップショットをキャプチャし、問題のデバッグに役立つ情報を提供します。このコマンドは、スタック構成に関する問題（スタックケーブルの問題、サイレントリロード、スイッチが待受開始状態にならない、スタックのクラッシュなど）が発生した場合に使用します。

**show tech-support stack** コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力をファイルにリダイレクトします（たとえば、**show tech-support stack | redirect flash:filename**）。

**show tech stack** コマンドの出力には次のコマンドの出力が表示されます。

次のコマンドは、待受開始状態のスタック構成のスイッチでのみ使用できます。

- **show platform software stack-mgr switch**
- **show platform software sif switch**
- **show platform hardware fed switch**
- **dir crashinfo:**
- **dir flash:/core**

**Stackwise Virtual** リンクを備えた **Cisco Catalyst 9500** シリーズ スイッチ

- **show clock**
- **show version**
- **show running-config**

次のコマンドは、待受開始状態のスタック非対応のスイッチでのみ使用できます。

- **show redundancy switchover history**
- **show platform software fed switch active**

- **show platform software fed switch standby**
- **show stackwise-virtual bandwidth**
- **show stackwise-virtual dual-active-detection**
- **show stackwise-virtual link**
- **show stackwise-virtual neighbors**
- **dir crashinfo:**
- **dir flash:/core**

次に、**show tech-support stack** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support stack
.
.
.

----- show stackwise-virtual bandwidth -----

Switch  Bandwidth
-----  -
1        400G
2        400G

----- show stackwise-virtual dual-active-detection -----

In dual-active recovery mode: No
Recovery Reload: Enabled

Dual-Active-Detection Configuration:
-----
Switch  Dad port                               Status
-----  -
-----

----- show stackwise-virtual dual-active-detection pagp -----

Pagp dual-active detection enabled: No
In dual-active recovery mode: No
Recovery Reload: Enabled

No PAgP channel groups configured

----- show stackwise-virtual link -----

Stackwise Virtual Link(SVL) Information:
-----
Flags:
-----
Link Status
-----
U-Up D-Down
Protocol Status
-----
S-Suspended P-Pending E-Error T-Timeout R-Ready
-----
```

Switch	SVL	Ports	Link-Status	Protocol-Status
1	1	HundredGigE1/0/45	D	R
		HundredGigE1/0/46	D	R
		HundredGigE1/0/47	D	R
		HundredGigE1/0/48	D	R
2	1	HundredGigE2/0/45	D	R
		HundredGigE2/0/46	D	R
		HundredGigE2/0/47	D	R
		HundredGigE2/0/48	D	R

```
----- show stackwise-virtual link detail -----
```

```
----- show stackwise-virtual neighbors -----
```

```
Stackwise Virtual Link(SVL) Neighbors Information:
```

Switch	SVL	Local Port	Remote Port
1	1	HundredGigE1/0/45	HundredGigE2/0/45
		HundredGigE1/0/46	HundredGigE2/0/46
		HundredGigE1/0/47	HundredGigE2/0/47
		HundredGigE1/0/48	HundredGigE2/0/48
2	1	HundredGigE2/0/45	HundredGigE1/0/45
		HundredGigE2/0/46	HundredGigE1/0/46
		HundredGigE2/0/47	HundredGigE1/0/47
		HundredGigE2/0/48	HundredGigE1/0/48

```
----- dir crashinfo-1: -----
```

```
----- dir flash-1:/core -----
```

```
----- dir crashinfo: -----
```

```
Directory of crashinfo:/
```

```

15778 -rw-          337   Dec 9 2018 09:29:47 +00:00 shutdown_fp0.log
15779 -rw-          336   Dec 9 2018 09:29:48 +00:00 shutdown_cc1.log
15780 -rw-          3675  Dec 9 2018 09:29:50 +00:00 shutdown_rp0.log
15781 drwx           147456 Jun 27 2019 18:21:13 +00:00 tracelogs
15910 drwx           8192   Jun 24 2019 08:58:06 +00:00 license_evlog
15872 -rw-          6769749 Dec 10 2018 07:12:56 +00:00
PROM2_1_RP_0_trace_archive_0-20181210-071255.tar.gz
16367 -rw-          3312204 Dec 16 2018 13:34:55 +00:00
PROM2_1_RP_0_trace_archive_0-20181216-133455.tar.gz
16392 -rw-          9858028 Dec 17 2018 03:36:07 +00:00
PROM2_1_RP_0_trace_archive_0-20181217-033605.tar.gz
16506 -rw-          10925702 Dec 17 2018 03:55:51 +00:00
PROM2_1_RP_0_trace_archive_0-20181217-035549.tar.gz
15804 -rw-          36415970 Dec 17 2018 03:56:45 +00:00
system-report_RP_0_20181217-035641-UTC.tar.gz
15951 -rw-          9769982 Jan 2 2019 10:32:42 +00:00
PROM2_1_RP_0_trace_archive_0-20190102-103239.tar.gz
16266 -rw-          2789185 Jan 27 2019 09:16:00 +00:00
PROM2_trace_archive_0-20190127-091559.tar.gz

```



```
15913 -rw-          2817836  Jan 27 2019 09:16:01 +00:00
SV_PROM2_20190127-091600-20190127-091600.tar.gz
15892 -rw-          4226737  Jan 29 2019 09:21:35 +00:00
PROM2_trace_archive_0-20190129-092134.tar.gz
15908 -rw-          4278342  Jan 29 2019 09:21:36 +00:00
SV_PROM2_1_RP_0_20190129-092135-20190129-092135.tar.gz
16147 -rw-          2749781  Feb  9 2019 07:40:30 +00:00
PROM2_trace_archive_0-20190209-074029.tar.gz
16174 -rw-          2758048  Feb  9 2019 07:40:30 +00:00
SV_PROM2_1_RP_0_20190209-074030-20190209-074030.tar.gz
16255 -rw-          7587256  Feb  9 2019 07:54:30 +00:00
PROM2_trace_archive_0-20190209-075428.tar.gz
16111 -rw-          4138377  Feb 12 2019 14:49:27 +00:00
PROM2_trace_archive_0-20190212-144926.tar.gz
16289 -rw-          4163980  Feb 12 2019 14:49:28 +00:00
SV_PROM2_20190212-144927-20190212-144927.tar.gz
16408 -rw-          11192891  Feb 16 2019 03:46:34 +00:00
PROM2_trace_archive_0-20190216-034631.tar.gz
16532 -rw-          10775214  Feb 17 2019 08:26:00 +00:00
PROM2_trace_archive_0-20190217-082558.tar.gz
16724 -rw-          8511058  Feb 20 2019 07:16:24 +00:00
prom_trace_archive_0-20190220-071622.tar.gz
16142 -rw-          9272613  Feb 20 2019 07:59:18 +00:00
prom_trace_archive_0-20190220-075916.tar.gz
16487 -rw-          9489722  Feb 20 2019 08:17:15 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_1-20190220-081712.tar.gz
15938 -rw-          8269605  Feb 21 2019 08:25:01 +00:00
prom_trace_archive_0-20190221-082459.tar.gz
16365 -rw-          8770811  Feb 23 2019 05:34:39 +00:00
prom_trace_archive_0-20190223-053437.tar.gz
16511 -rw-          11781087  Feb 23 2019 08:02:23 +00:00
prom_trace_archive_0-20190223-080219.tar.gz
16478 -rw-          12131870  Feb 23 2019 09:52:20 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_1-20190223-095217.tar.gz
16518 -rw-          8884135  Feb 25 2019 04:54:49 +00:00
prom_trace_archive_0-20190225-045447.tar.gz
16015 -rw-          9323140  Feb 25 2019 05:20:51 +00:00
prom_trace_archive_0-20190225-052049.tar.gz
15827 -rw-          10669814  Feb 25 2019 06:19:23 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_0-20190225-061920.tar.gz
16618 -rw-          11593370  Feb 26 2019 05:46:57 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_0-20190226-054653.tar.gz
16566 -rw-          9183975  Feb 26 2019 09:06:15 +00:00
prom_trace_archive_0-20190226-090612.tar.gz
16101 -rw-          10331235  Feb 26 2019 09:33:31 +00:00
prom_trace_archive_0-20190226-093328.tar.gz
16583 -rw-          10877332  Feb 26 2019 15:06:11 +00:00
prom_trace_archive_0-20190226-150608.tar.gz
157761 -rw-          11572215  Feb 27 2019 04:25:32 +00:00
prom_trace_archive_0-20190227-042529.tar.gz
16597 -rw-          10179574  Mar  3 2019 09:53:09 +00:00
prom_trace_archive_0-20190303-095307.tar.gz
16411 -rw-          13563488  Mar  4 2019 09:25:11 +00:00
prom_trace_archive_0-20190304-092506.tar.gz
16206 -rw-          12814910  Mar  4 2019 10:35:28 +00:00
prom_trace_archive_0-20190304-103523.tar.gz
17008 -rw-          13367417  Mar  4 2019 14:48:42 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_1-20190304-144838.tar.gz
16040 -rw-          13241640  Mar  4 2019 15:17:11 +00:00
prom_trace_archive_0-20190304-151706.tar.gz
157762 -rw-          13371247  Mar  4 2019 15:20:11 +00:00
SV_prom_1_RP_0_20190304-152007-20190304-152007.tar.gz
16450 -rw-          13382489  Mar  5 2019 05:57:08 +00:00
prom_trace_archive_0-20190305-055703.tar.gz
```

```
157763 -rw-          11658032   Mar 9 2019 11:03:00 +00:00
prom_trace_archive_0-20190309-110257.tar.gz
16679  -rw-          11492610   Mar 11 2019 08:53:16 +00:00
prom_trace_archive_0-20190311-085313.tar.gz
17015  -rw-          10077961   Mar 13 2019 05:17:33 +00:00
prom_trace_archive_0-20190313-051731.tar.gz
16004  -rw-          2408001    Mar 27 2019 11:50:31 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_0-20190327-172031.tar.gz
16012  -rw-          2452283    Mar 27 2019 11:50:32 +00:00
SV_prom_20190327-172031-20190327-172031.tar.gz
16341  -rw-          2562092    Mar 27 2019 14:44:59 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_1-20190327-201458.tar.gz
16332  -rw-          8298681    Mar 27 2019 17:16:51 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_0-20190327-224649.tar.gz
16496  -rw-          9432359    Mar 27 2019 18:19:50 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_0-20190327-234947.tar.gz
16664  -rw-          8910820    Mar 28 2019 15:58:12 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_1-20190328-212810.tar.gz
16035  -rw-          8578186    Mar 29 2019 08:00:27 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_0-20190329-133025.tar.gz
16312  -rw-          8735806    Mar 29 2019 08:30:39 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_1-20190329-140037.tar.gz
15891  -rw-          9944637    Apr 4 2019 09:05:31 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_0-20190404-143528.tar.gz
157764 -rw-          9969565    Apr 4 2019 09:05:36 +00:00
SV_prom_1_RP_0_20190404-143533-20190404-143533.tar.gz
15782  -rw-          9507820    Apr 4 2019 09:05:56 +00:00
system-report_RP_0_20190404-143553-IST.tar.gz
15790  -rw-          563542    Apr 4 2019 09:06:01 +00:00
SV_prom_1_RP_0_20190404-143600-20190404-143600.tar.gz
16131  -rw-         11331090    Apr 23 2019 14:43:24 +00:00
prom_trace_archive_0-20190423-201322.tar.gz
16524  -rw-         11230265    Apr 23 2019 14:49:24 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_1-20190423-201921.tar.gz
16272  -rw-         11417387    Apr 23 2019 14:55:27 +00:00
SV_prom_1_RP_0_20190423-202524-20190423-202524.tar.gz
15901  -rw-         11435393    Apr 23 2019 14:56:03 +00:00
prom_1_RP_0_trace_archive_2-20190423-202600.tar.gz
16118  -rw-         11337603    Apr 23 2019 15:01:59 +00:00
SV_prom_1_RP_0_20190423-203157-20190423-203157.tar.gz

.
.
.
```

出力フィールドの意味は自明です。

## stackwise-virtual

スイッチの Cisco StackWise Virtual を有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **stackwise-virtual** コマンドを使用します。Cisco StackWise Virtual を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**stackwise-virtual**  
**no stackwise-virtual**

構文の説明	<b>stackwise-virtual</b>	Cisco StackWise Virtual を有効にします。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** Cisco StackWise Virtual を無効にしたら、スイッチをリロードしてスタック解除する必要があります。

### 例

次に、Cisco StackWise Virtual を有効にする例を示します。

```
デバイス(config)# stackwise-virtual
```

## stackwise-virtual dual-active-detection

インターフェイスをデュアルアクティブ検出リンクとして設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **stackwise-virtual dual-active-detection** コマンドを使用します。インターフェイスの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**stackwise-virtual dual-active-detection**  
**no stackwise-virtual dual-active-detection**

構文の説明	<b>stackwise-virtual dual-active-detection</b>	指定されたインターフェイスの Cisco StackWise Virtual デュアルアクティブ検出を有効にします。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例：

次に、10 ギガビットイーサネットインターフェイスをデュアルアクティブ検出リンクとして設定する例を示します。

```
Device(config)# interface TenGigabitEthernet1/0/2
(config-if)#stackwise-virtual dual-active-detection
```

## stackwise-virtual link

インターフェイスを設定済みの StackWise Virtual リンクと関連付けるには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **stackwise-virtual link** コマンドを使用します。インターフェイスの関連付けを解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**stackwise-virtual link** *link-value*  
**no stackwise-virtual link** *link-value*

構文の説明	<b>stackwise-virtual link</b>	StackWise Virtual リンクにインターフェイスを関連付けます。
	<i>link value</i>	Cisco StackWise Virtual に対して設定されているドメイン ID。
コマンドデフォルト	ディセーブル	
コマンドモード	インターフェイス コンフィギュレーション (config-if)。	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例：

次に、40 ギガビットイーサネット インターフェイスと設定済みの Stackwise Virtual Link (SVL) を関連付ける例を示します。

```
デバイス(config)# interface FortyGigabitEthernet1/1/1
デバイス(config-if)#stackwise-virtual link 1
```

## standby console enable

スタンバイ コンソール スイッチへのアクセスをイネーブルにするには、冗長メイン コンフィギュレーション サブモードで **standby console enable** コマンドを使用します。スタンバイ コンソール スイッチへのアクセスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**standby console enable**  
**no standby console enable**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

スタンバイ コンソール スイッチへのアクセスはディセーブルです。

### コマンド モード

冗長メイン コンフィギュレーション サブモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、スタンバイ コンソールに関する特定のデータを収集し、確認するために使用されます。コマンドは、主にシスコのテクニカルサポート担当がスイッチのトラブルシューティングを行うのに役立ちます。

次に、冗長メインコンフィギュレーションサブモードを開始し、スタンバイ コンソール スイッチへのアクセスをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device(config-r-mc)#
```

## start maintenance

システムをメンテナンスモードにするには、特権 EXEC モードで **start maintenance** コマンドを使用します。

### start maintenance

構文の説明	<b>start maintenance</b>	システムをメンテナンスモードにします。				
コマンドデフォルト	ディセーブル					
コマンドモード	特権 EXEC					
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>Cisco IOS XE Everest 16.6.1</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。	
リリース	変更内容					
Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。					

例：

次に、メンテナンスモードを開始する例を示します。

```
Device# start maintenance
```

# stop maintenance

システムをメンテナンスモードから解除するには、特権 EXEC モードで **stop maintenance** コマンドを使用します。

## stop maintenance

---

コマンド デフォルト      ディセーブル

---

コマンド モード          特権 EXEC

---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

---

例：

次に、メンテナンス モードを停止する例を示します。

```
Device# stop maintenance
```



## svl l2bum optimization

StackWise Virtual リンクでレイヤ2ブロードキャスト、ユニキャスト、マルチキャスト (BUM) トラフィックの最適化を有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **svl l2bum optimization** コマンドを使用します。

レイヤ2 BUM トラフィックの最適化をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**svl l2bum optimization**  
**no svl l2bum optimization**

構文の説明	<b>svl l2bum optimization</b> StackWise Virtual リンクでレイヤ 2 BUM トラフィックの最適化を有効にします。				
コマンド デフォルト	イネーブル				
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config) #				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.x	このコマンドが導入されました。				

例：

次に、StackWise Virtual リンクでレイヤ 2 BUM トラフィックの最適化を有効にする例を示します。

```
Device(config)# svl l2bum optimization
```

## system mode maintenance

システムモードメンテナンスコンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **system mode maintenance** コマンドを使用します。

### system mode maintenance

構文の説明	<b>system mode maintenance</b>	メンテナンス コンフィギュレーションモードを開始します。
コマンド デフォルト	ディセーブル	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

例：

次に、メンテナンス コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
Device(config)# system mode maintenance
Device(config-maintenance)#
```

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。